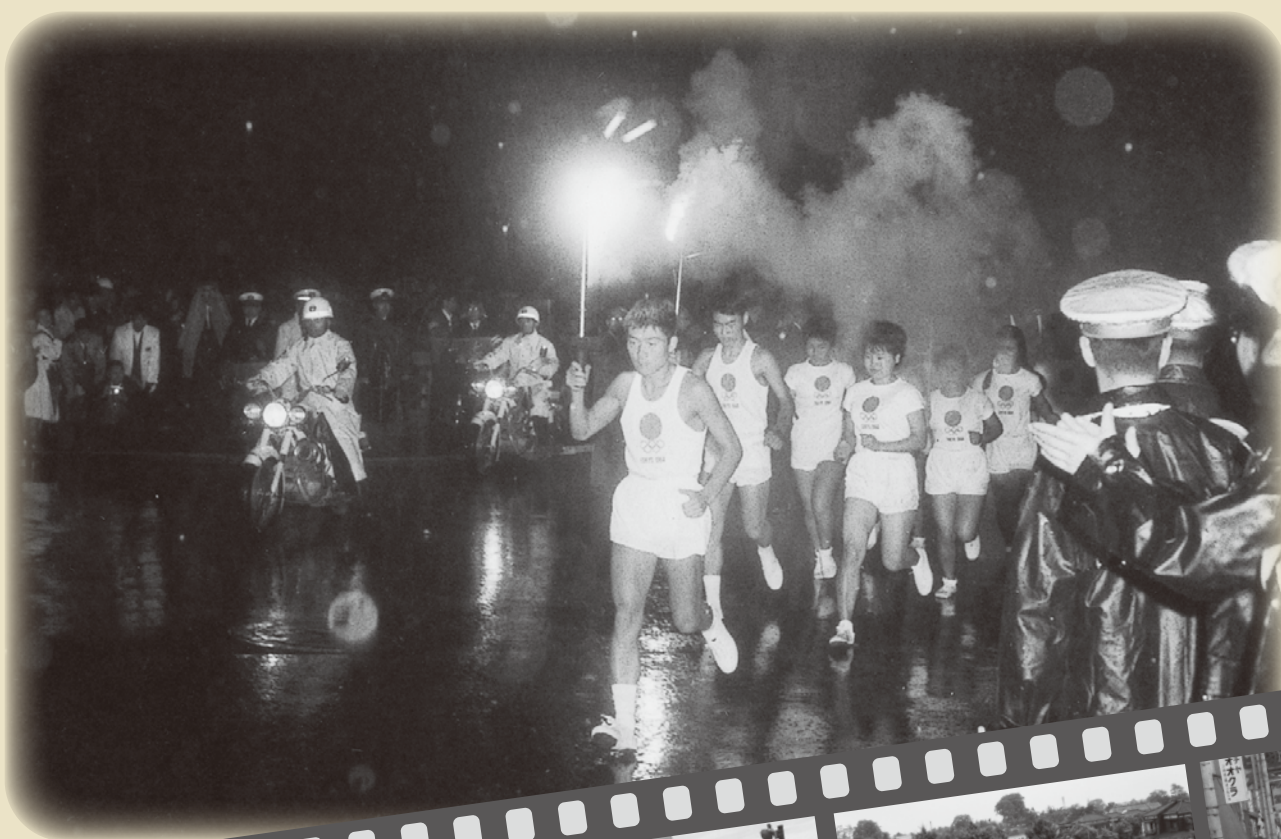




東京武蔵野ライオンズクラブ 50周年記念誌

50th anniversary



TOKYO MUSASHINO LIONS CLUB

目次

特別寄稿	青春の街、武蔵野・吉祥寺……………	P2 ～ 3
祝 辞	土屋正忠 衆議院議員（前武蔵野市長）……………	P4
	邑上守正 武蔵野市長……………	P5
	黒田 浄 武蔵野警察署長……………	P6
	齋藤祐治 武蔵野消防署長……………	
	バリー J. パーマー L 国際会長……………	P7
	鈴木 定光 330-A 地区ガバナー……………	
お礼の言葉	L 後藤登 会長／L 小林利治 50 周年記念実行委員長……………	P8
◇ 50 周年記念式典……………		P9 ～ 19
	50 周年記念事業＜スポーツ祭東京支援＞……………	P20
	＜ムービンピック・東日本大震災支援＞……………	P21
	CN50 周年記念実行委員会組織図……………	P22
◇ クラブの歴史 -1（CN1～CN45）……………		P23
	特別対談①＜チャーターメンバー大いに語る＞……………	P24 ～ 27
	特別対談②＜地域を超えた “We Serve”＞……………	P28 ～ 29
	積み上げ育てた “We Serve” - 1……………	P30 ～ 36
	・獅子の夢基金 ・その他の贈呈品 ・留学生の小さな冒険	
	・YE 生受け入れ ・街頭募金 ・JC 合同例会と総括	
◇ クラブの歴史 -2（CN46～CN50）……………		P37
	東日本大震災での “We Serve”……………	P38 ～ 41
	明日へつなげる “We Serve” - 2……………	P42 ～ 48
	・こいこい ・留学生月見 ・旅行 ・ムービンピック ・チャリティーゴルフ	
◇ クラブの歴史 -3（クラブライフ編）……………		P49
	とにかく楽しい交流録……………	P50 ～ 57
	・旅行 ・納涼 ・クリスマス ・親子でライオンズ ・ゴルフ同好会	
	・歌謡同好会 ・釣り愛好会 ・呑みニケーション、その他	
メンバーひと言コメント……………		P58 ～ 60
武蔵野むかし話……………		P61 ～ 69
編集後記……………		P70

青春の街、武蔵野・吉祥寺

自由民主党総裁・衆議院議員 安倍晋三



東京武蔵野 LC50 周年への祝辞

私の第二の故郷は吉祥寺を中心とした武蔵野市です。昭和36年成蹊小学校に入学以来、昭和52年成蹊大学を卒業するまでの16年間を過ごした青春の街です。

成蹊学園は創立者中村春二先生が、「桃李言わざれども下自ずから蹊を成す」から“成蹊”と校名を付けたように、全人教育を実践する素晴らしい学園です。武蔵野の大地の一角を切り拓いてできた広大な学園は、櫟、桜、ユリの木など、様々な木々に囲まれた「森の学園」です。春は桜、夏木立は櫟、秋の紅葉、この美しい自然が私の人格形成に深い影響を与えました。

学園へは JR 中央線（当時国鉄）吉祥寺駅からバスや徒歩で通いました。当時の吉祥寺はのんびりした郊外の街で、文化人も多く住み、名曲喫茶やジャズ喫茶や、ホームラン軒という名物ラーメン屋があり、高校時代、学校の帰りに立ち寄り、カウンターで食べるのが楽しみの一つでした。

吉祥寺駅の南口には、平成29年5月に開園100周年を迎える井の頭公園と自然文化園があり、友人たちと連れだって散策をしました。私の家は、父、安倍晋太郎、祖父、岸信介と政治家の家系ですが、同級生たちはフランクに付き合ってくれて、今でもかけがえのない友人たちです。

16年間の在学中、東京オリンピックと札幌オリンピックの二つの世界的イベントに出会いました。

東京オリンピックは小学校4年でした。東洋の魔女といわれた、ニチボー貝塚の金メダルに興奮したり、陸上競技最後の種目マラソンで、エチオピアのアベベ選手が裸足で走り、見事金メダルを獲得した時は、子供ながらも新しい時代が来た事を予感しました。また全国を回った聖火ランナーが武蔵野市に一泊し、吉祥寺の街に歓迎ののぼりが立ったのも楽しい思い出です。

昭和47年の札幌オリンピックは高校2年の冬でした。スキージャンプ競技で1～3位まで独占した日の丸飛行隊に、自分の将来を重ね合わせ確かな手応えを感じました。

二つのオリンピックは私の心に深く刻まれましたが、今度は再び総理となって、日本が2020年の東京オリンピックの開催国となり感無量です。オリンピックは東京都が主宰しますが、政府としても全力で支援し、史上最高のオリンピックを実現します。世界中から集まるアスリート、観客、報道陣の皆さんをおもてなしの心でお迎えし、友情の輪を広げ、平和に貢献する国・日本の存在を高めたいと思います。

武蔵野ライオンズを始め、武蔵野市民の皆さんの力で、武蔵野・吉祥寺がいつまでも魅力ある街であることを期待いたします。

※日本のトップリーダー安倍総理にご祝辞をいただきました。

名誉会員

吉祥寺駅前に献血ルームタキオンを作らせたライオンズの実践力

衆議院議員（前武蔵野市長） 土屋正忠



武蔵野ライオンズ創立 50 周年おめでとうございます。歴代の皆様が、輝かしき奉仕実践の歴史を積み重ねて、今日を迎えていることを心からお喜び申し上げます。

私が武蔵野市長に初当選したのは、昭和 58 年・西暦 1983 年です。5 月 1 日に就任直後から、市職員 4000 万円高額退職金問題がおこり、その是正措置のため徹夜の連続という大騒動になりました。全国から自治労青年部のデモ隊、右翼の街宣車、機動隊などが押し寄せ、歴史に残る大騒動でしたが 1 ヶ月間で 1000 万円引き下げ、5 年で国家公務員並みに引き下げることで決着がつきました。その後数ヶ月たち落ち着いた時、医師の山崎弘ライオンが市長室を訪れ「君をライオンズの名誉会員にするから承知しなさい」と言われました。兼ねてからライオンズの皆様が、奉仕活動の実践者として海外に学校を作る運動や献血活動の第一線に立っていることを良く存じ上げていましたし、何よりも武蔵野医師会の長老ご意見番で、私の主治医でもある山崎先生の言葉でしたので、ありがたく拝受いたしました。

このようにして、出席率の極めて悪い（不？）名誉会員としての活動が始まりました。それから 1～2 年して、吉祥寺駅前広場の造成が軌道に乗った時、山崎ライオンや、渡辺正一ライオンなどが市長室に訪問されて「吉祥寺駅前に、三菱銀行（当時）がビルを造るらしいが、そこに日赤の献血ルームを設置したいので、名誉会員として力を貸してくれ」との申入れがありました。献血活動はライオンズの原点であり、何しろ人間でしか作れない血液ですので、二つ返事で引き受けました。

しかし、この問題は長期間難航いたしました。武蔵境の日赤血液センターの事務方が交渉に不慣れなため、三菱銀行吉祥寺支店と交渉せず、日赤の口座がある三菱銀行武蔵境支店にお願いし、本部に上げてもらうという有様でした。それでも、吉祥寺駅前広場に面した超一等地に建てるビルですから、三菱銀行は純民間商業ビルにした方が、賃料が高くとれるのです。市政は多様ですから、私はこの問題だけかかりっきりになることは出来ませんでした。そこを見通したようにライオンズの皆様が「市長どうなっている？」と定期的に催促にきました。業を煮やした私は、武蔵野市の幹事銀行である三菱銀行本店の責任者に来てもらい「賃料は、相場より安いかもしれないが、銀行の社会貢献としてお願いします」とかけ合いようやく「献血ルーム吉祥寺タキオン」が実現したのです。武蔵野ライオンズの皆様の強力な働きかけがなければ、吉祥寺タキオンは実現しなかったと思います。

今や吉祥寺タキオンは、都内で 1～2 を争う大勢の献血者で賑わっています。

ライオンズの皆様の、揺るぎない信念と奉仕の実践はどこから来るのかと考えていましたが、ライオンズヒムを歌っている時にふと気がつきました。

リパティ・インテリジェンス・アワー ネイションズ・セーフティーとあります。まさに自由を信奉し知性をもって祖国を守る揺るぎない愛国心に基づいているのだと。

武蔵野ライオンズの 50 年の歴史を担ってきた、歴代ライオンズの皆様に心から御礼と敬意を表し、これからも各々の役割を果たし続けることをお祈りし、お祝いいたします。

名誉会員

東京武蔵野ライオンズクラブ創立 50 周年を祝して

武蔵野市長 邑上守正



東京武蔵野ライオンズクラブ創立 50 周年、誠におめでとうございます。長年にわたり、社会奉仕の精神を持ち意欲的に活動してこられた会員の皆様に心から敬意を表します。

ライオンズクラブは、自由と知性と国家の安全のために奉仕する世界最大のボランティア団体です。東京武蔵野ライオンズクラブは、多摩地域で最初に結成されたクラブであり、結成時からの伝統を引き継ぎながら、精力的に活動されています。

平成 20 年には、当市に救命機器 AED を寄贈いただき、市では 24 時間営業のコンビニエンスストアに AED を設置しました。これを契機に開始した、市内事業所に AED 貸し出しの協力をいただく「AED 有効活用推進事業」は着実に広がっており、安全・安心のまちづくりに大きく貢献しています。

東日本大震災後には、チャリティアニメソングライブを開催され、武蔵野市内に避難されている被災者の方々を招待されました。このコンサートで集まった義援金は、被災地や避難受入先の小学校支援のために送られました。

さらに、貴クラブはスポーツや文化の普及発信にも取り組まれており、昨年のスポーツ祭東京 2013 の開催にあたりましては、競技スタッフ用ジャンパーの協賛をいただきました。

また、24 時間以内に撮影から編集まで行い短編映画を完成させる画期的な映像制作競技会「ムービンピック」を開催され、武蔵野市の魅力を広く発信いただいています。

武蔵野市では、これからも一人ひとりを大切に、次世代に誇りを持って継承できる持続可能なまちづくりを進めてまいります。皆様におかれましても、引き続き、安全・安心のまちづくり、魅力あるまちづくりにご尽力くださいますようお願いいたします。

結びに、創立 50 周年を迎えた東京武蔵野ライオンズクラブの益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念し、お祝いのご挨拶といたします。

名誉会員

武蔵野警察署長 黒田 浄



東京武蔵野ライオンズクラブが創設 50 周年を迎えられ、誠にありがとうございます。

この度、記念事業の一環としまして、貴クラブの歴史を綴る「記念誌」が発刊されますことは、誠に意義深いことであり、心からお喜び申し上げます。

また、貴クラブにおかれましては、平素から警察業務各般にわたり、深いご理解と暖かいご支援を賜っておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

「住んでみたい街、住んで良かった街、武蔵野」の治安を預かる武蔵野警察署といたしましては、今後も地域の方々や事業所の皆様が犯罪や交通事故に遭わないよう、署員一丸となって治安維持に当たる所存でありますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、貴クラブの益々のご隆盛と会員皆様方のご健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

名誉会員

武蔵野消防署長 齋藤祐治



このたび東京武蔵野ライオンズクラブが創設 50 周年の佳節を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

貴クラブは、1963 年 12 月に東京都下最初のライオンズクラブとして結成されて以来、半世紀もの長きにわたり地域社会への積極的な奉仕活動を続けられ、数々の実績を残してこられました。そしてこの間、歴代の会長をはじめ会員の皆様方が「社会に貢献し奉仕する。」という崇高な精神のもと、輝かしい伝統と歴史を着実に積み重ねてこられたことに、改めまして敬意を表するものであります。

私たちの武蔵野市が、「住みたい街」「住んで良かった街」と言われる所以を考えると、貴クラブの皆様による多大な地域貢献と献身的な奉仕活動がその一翼を担っておられることは間違いありません。

私ども武蔵野消防署も、皆様と志のベクトルを同じくする地域の災害対応機関として、市民の安心・安全をより一層高めていくために、今後も署員一丸、力を結集し鋭意活動してまいり所存であります。

結びに、50 周年を機に貴クラブがますますご発展されますことと会員の皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

ライオンズクラブ国際協会
国際会長 バリー J. パーマー

このたびは結成 50 周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。50 周年記念は、これまでクラブが成し遂げてきたことを顧みると同時に、新たな奉仕の可能性を望む機会です。達成した成果を祝いつつ、さらなる向上を目指し新たな道を探る必要があります。

皆様がこれまで、思いやりの心を持ち、人々に援助の手を差し伸べようと献身的にご尽力くださったお蔭で、ライオンズクラブ国際協会は、およそ一世紀に渡りグローバル・リーダーの地位を維持することができました。

貴クラブは、チームとして一致団結すれば、一人が行うよりも一層大きなことを成し遂げることができるのだということに気が付いた、思いやりある有志によって結成されました。

協力すれば、私たちは地域で、そして世界で数えきれない人々の人生を変えることができます。力を合わせれば、奉仕を通じてより良い世界をつくるという夢を実現できます。共に取り組み、達成できることは無限です。重ねて、貴クラブの 50 周年記念をお祝い申し上げます。引き続き、奉仕における貴クラブのますますのご発展をお祈りいたします。

330-A 地区ガバナー 鈴木定光



東京武蔵野ライオンズクラブの皆様、結成 50 周年、誠にありがとうございます。

先般、東京へのオリンピック・パラリンピック招致が実現いたしました。貴クラブは前回の東京オリンピックの年であり、1964 年にチャーターナイトが行われ、創設以来、半世紀にわたり伝統を引き継ぎながら、新しい活動にも精力的に取り組んでこられました。

継続されていますアクティビティも、交通少年団・消防少年団活動支援・少年柔剣道大会・わんぱく相撲大会支援などの地域に密着した青少年育成活動をはじめ、知的障がい者とそのご家族に対する支援活動や留学生支援事業、さらには東日本大震災復興支援事業の長期的な継続など、幅広い分野でご活躍されていますことに、心より敬意を表する次第です。

貴クラブにおかれましては、地域における青少年の健全育成に対する支援活動に重点をおいて事業を展開されておられます。このように地域に根ざした活動を熱心に行うことは、地域社会と深い関わりがもたらすライオンズクラブである事を忘れず、また奉仕活動の本来あるべき形を具現化した模範的な姿であるといえます。

地域における連帯意識や人間関係の希薄化が顕著になり、一個人と社会とのつながりが薄れゆく昨今の社会情勢において、ライオンズクラブが地域社会をしっかりと支えていくためには、高潔な使命感のもとに主体的な姿勢をもって「責任ある社会奉仕活動」の主役となり、コミュニティーの重要な担い手、また互助・共助の担い手として力を十分に発揮していくことが重要ではないでしょうか。

50 周年をひとつの節目として、今後とも東京武蔵野ライオンズクラブが独自の発想と行動力をもって、地域発展のための先駆者となり活躍されながら、ライオンズ活動に対してより一層のご尽力を賜ります事をお願いし、貴クラブならびにメンバーの皆様方の更なるご繁栄をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



お礼の言葉

東京武蔵野ライオンズクラブ
会長 後藤 登
50周年記念実行委員長 小林利治

明日へ繋げる

東京武蔵野ライオンズクラブ創立 50 周年にあたり、武蔵野市長 邑上守正様をはじめ、御来賓の皆様、並びにライオンズクラブ国際協会 330-A 地区 鈴木定光ガバナーをはじめ、キャビネット役員、ライオンズクラブ関係の御来賓の皆様、公私共にご多用のところ御臨席を賜り、ここに記念式典を挙行出来ましたこと、クラブを代表致しまして心より厚く御礼申し上げます。

当クラブは、1963 年 12 月 6 日、東京杉並ライオンズクラブのスポンサーにより、多摩地域では最初のライオンズクラブとして、旧武蔵野商工会館にて結成式を行い、翌 1964 年 5 月 31 日、東京中野ライオンズクラブと共に、合同で赤坂ミカドにてチャーターナイトを挙行いたしました。

以来、半世紀に亘り奉仕活動を継続し、ここにチャーターナイト 50 周年記念式典を挙行する運びとなりましたのも、330-A 地区ガバナー並びに親クラブ、友好クラブをはじめ、地元関係団体の皆様、そして今日までご尽力を頂いた、諸先輩方の温かいご支援とご指導のおかげと感謝申し上げます。

クラブ創立以来今日まで、献血事業、青少年育成事業、留学生との交流事業、地域障がい者団体助成事業等の奉仕活動、加えて、日本各地をはじめ、世界の災害支援のための募金活動等、幅広い奉仕活動を行ってまいりました。

現在も「3.11 を忘れない」を合言葉に東日本大震災被災者、被災地の支援活動は継続事業として取り組んでおります。

この武蔵野の地で半世紀に亘り、数々のアクティビティを積み重ねてきた、先輩ライオンの御活動に敬意を表すると共に 50 年に亘り灯し続けたウィサーブの灯を、メンバー一同で灯し続けてまいりますので、今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びになりますが、長きに亘りご支援を頂いた関係団体の皆様を始め、ご臨席の皆様方のご活躍とご健勝をお祈り申しあげまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。

C N 5 0 周年記念式典

(2014.6.12 吉祥寺第一ホテル)



「心づくし」を合言葉に、半世紀の歴史を寿ぐ一夜

東京武蔵野ライオンズクラブのチャーターナイト 50 周年記念式典・祝宴は 2014 年 6 月 12 日（木）、吉祥寺第一ホテル「天平の間」で数多くの出席者を集めて盛大に催されました。当日は「心づくし」を合言葉に、クラブメンバーの近親者の協力も得ながら、全員でおもてなしに努めました。「感動的な時間、意外性の空間」の実現を目指し、舞踊やハープ演奏、東北支援歌も披露されるなど、半世紀の歴史を寿ぐ、素晴らしい一夜となりました。

We Serve !!



■ CN50 周年式典

オープニングパフォーマンスは「伝統からの創造」をテーマに祝典舞踊が披露されました。歌舞伎囃子立鼓の望月朴清（もちづき・ぼくせい）師による鼓の音が厳かに流れる中、藤間仁章、長男・藤間仁凰、孫・平部征史郎の三代が揃い踏みし、伝統の三番叟が演じられました。



吉田宗一郎と金子あいさんの司会でスタート



オペラ歌手富田真理さんによる国歌独唱



祝辞を述べる邑上守正・武蔵野市長



後藤登による会長挨拶



お祝いの言葉を贈る鈴木定光・330-A 地区ガバナー



祝辞を寄せる山浦晟暉・GMT 第5 会則地域リーダー



山浦リーダーより清水、渡辺両氏に感謝状授与



東京武蔵野ライオンズクラブからは記念のメダルを贈呈

■ CN50 周年祝宴

式典に続く祝宴では「50歳の誕生日」に花を添える、鏡開きやプロの歌唱・演奏など、楽しく、しかも見応えのあるプログラムが盛りだくさん。明日への決意を新たに、大切な絆を深めることができました。



開宴の挨拶はL小林利治



土屋正忠・衆議院議員からご祝辞



石井征二・GMT 家族会員開発エリア・リーダー



ライオンの330-A 地区の幹部や近隣クラブの会長も揃っての鏡開き



東北支援歌《花は咲く》を熱唱する富田真理さん（L 大谷直夫人）
フルート鳥谷部良子さん（左）、グランド・ハープ竹之上幸子さん（右）



第25回吉祥寺音楽祭でグランプリを受賞したナツメグさん



出席者全員で《明日があるさ》を大合唱したグランドフィナーレ



L 渡部法雄の発声で明日への雄叫び「ライオンズローア」



次期会長L長瀬雄一が力強く「明日への誓い」を宣言



L 大谷直（次期第一副会長）とL 秋本清（次期ゾーンチェアパーソン）が
お礼の言葉を述べてお開きに

■ CN50 周年祝宴



■ CN50 周年祝宴



式典進行を陰で支えたスタッフ達

■ CN50 周年記念事業

50 年という大きな節目の年に相応しい記念事業をと、事業部会を中心に考え抜いたうえで、3つのアクティビティを実施しました。

① スポーツ祭東京 2013 でのスタッフ用ジャンパー 600 着の寄贈



武蔵野市からの感謝状



スタッフ用ジャンパーを着用して競技の応援

② 映像制作競技会「第2回ムービンピック」の共催



第2回ムービンピックポスター

③ 東日本大震災の被災地支援活動の継続

クラブイベントでのお土産等はすべて被災地産のものを使用



■ CN50 周年記念実行委員会組織図

会長	L 後藤 登			
幹事	L 吉田 宗一郎			
実行委員長	L 小林 利治			
副実行委員長	L 藤間 仁章		L 櫻井 正巳	
	L 高橋 勇		L 秋田 克之	
総務部会	◎L 櫻井 正巳			
	○L 永生 芳樹		○L 中村 久文	
	L 秋本 清		L 戎 馨	
	L 後藤 敏夫		L 渡辺 正一	
式典部会	◎L 藤間 仁章			
	○L 長渕 雄一		○L 木下 昇	
	L 中浜 亮介		L 田崎 耕作	
	L 笹川 裕司		L 清水 友太郎	
事業部会	◎L 高橋 勇			
	○L 原田 啓助		○L 西宮 忠	
	L 稲垣 英夫		L 小笠原 耕司	
	L 志賀 且典		L 田辺 文彦	
	L 清水 宏益		L 藤原 廣彦	
記念誌部会	◎L 秋田 克之			
	○L 丸山 信一		○L 佐藤 雄一郎	
	L 渡部 法雄		L 高橋 健一	

※ ◎部会長 ○副部会長

クラブの歴史 - 1

(1963 ～ 2009 / CN1 ～ CN45)



ライオンズクラブ国際協会 クラブ認証状

東京多摩地区で“最初に誕生したライオンズクラブ”

東京武蔵野ライオンズクラブのアクティビティは、フィリピン・ダバオ支援を＊嚆矢として、文字通りアクティブに富んだ多様な展開を見せています。L 清水友太郎と L 渡辺正一の両チャーターメンバーによる座談会、L 渡部法雄と L 小林利治のお二人が語るダバオへの想い、創立から 45 周年までの印象深いアクティビティをピックアップした 3 部構成でお届けします。

＊嚆矢（こうし）
ある物事の先駆け、一番手、いわゆる「はしり」という意味です。「嚆矢」とは、「かぶらや」とも読み、平安時代後期ごろから使われ始めた、戦いの開始を敵味方に知らせるための、大きな音が出る矢のことです。ここから、上のような意味になったと言われています。

特別対談 ①

チャーターメンバー大いに語る

半世紀に及ぶクラブの歴史には、実に様々な出来事が起こりました。ここではチャーターメンバーである、L 清水友太郎と L 渡辺正一のお二人に、クラブ創設の経緯や草創期のご苦労、印象深いアクティビティ、今後のクラブに対する要望まで、存分に語っていただきました。（司会は L 丸山信一）



L 清水 友太郎



L 渡辺 正一

武蔵野は「七人の侍」が立ち上げた

L 丸山信一 当クラブは、東京杉並ライオンズクラブを親クラブとして設立されたわけですが、そもそもの経緯をお聞かせいただけますか。

L 清水友太郎 当時杉並のメンバーで、武蔵野法人会の事務局長だった三澤登記雄さん（初代幹事・1963―64 年）から、ライオンズクラブに入らないかとお誘いがあったのですが、一方で私と仲の良かった山本幹夫さん（二代目幹事・1964―65 年）に、武蔵野商工会議所から青年会議所を立ち上げてほしいという話もありました。そこで三澤さんからの依頼はお断りしたのですが、山本さんが入会してしまった。私一人では青年会議所を始めるのは難しいので、他の人に任せ、杉並ライオンズクラブのメンバーになりました。その後、武蔵野に転籍した次第です。

L 丸山 杉並から移られたのが 7 名で、結成時にはさらに 40 名が加わっています。これだけの人数を集めるのは大変ではなかったですか。

L 渡辺正一 転籍して来られた 7 名が中心になって一生懸命活動されました。

L 丸山 当初の名称は頭に「東京」がなく、単に「武蔵野ライオンズクラブ」でした。これには何か理由があるのでしょうか。



「東京」が入った新しい認証状

L 清水 「東京」と付けてはいけなかったことになっていました。テリトリーがとても大事で、それに引っかかるような事は認めてもらえませんでした。一つのまとまりを作っていく本部の方針もあったのでしょう。

L 渡辺 都区内でないと「東京」と付けることはできませんでした。田舎のクラブと思われると、歴代の会長は面白くなかったようです。そこで国

最初のアクティビティは将棋盤の寄贈

L 丸山 クラブの最初のアクティビティはどんなものだったのでしょうか。

L 清水 武蔵野公会堂に将棋盤（駒付）を 10 組寄贈したことでしょうか。ちょうど公会堂が出来上がった頃で、四畳半くらいのお茶室のような座敷があって、そこに将棋盤が欲しいというリクエストがありました。もうひとつは、都の施設にいらっしゃる高齢者を慰問する婦人会など奉仕団体は多かったが、われわれは変わったことをしようということで、慰問しているその人達を労わる会を作るのもいいのではないかと……。実際に出かけたら先方も照れていましたけどね。

L 渡辺 最も印象深いのは、母子家庭への慰問ですね。八王子のプールに皆を連れていきました。寄贈以外のアクティビティで自ら動いたのは、これが最初だったと思います。

あと奉仕として忘れられないのは、うちのクラブではありませんが、盛岡ライオンズクラブが 1965 年に始めた「スズラン給食」です。岩手県玉山村（現在の盛岡市）の藪川小・中学校分校の多くの児童が弁当を持ってこられない状況を知り、まず給食設備が贈られました。

また、都会の人たちにもこのことを知ってもらおうと、盛岡クラブは児童たちが山で摘んだスズランを東京・横浜のクラブに贈り、例会でそれを売って給食費に宛ててはどうかと提案しました。うちのクラブも力を入れて購入しました。こうし

際本部に働きかけて、「東京」と上に付けることを交渉して 10 年くらいかかりました。金子侑五朗さん（四～六代会長・1966―69 年）はシカゴまで出向きました。

L 清水 結局、呼称としては許可するけれど、テリトリーとしては考えないということになりました。

L 渡辺 そうしたら、多摩地区のクラブは全部頭に「東京」がつくようになりました。

て同校での給食が始まったのですが、各メディアが報道して大きな反響を呼び、当時の佐藤栄作首相が辺地校への給食対策に乗り出しました。このことは連日ニュースとして取り上げられ、ライオンズクラブの存在とその活動が広く知られ、認知された最初の出来事だったと思います。

L 清水 今では考えられないけれど政府もお金がなかった。貧しい人が多かったし、税金もたくさん取れないので。政府として消防車を買えない時代だったんですよ。今は公的な物に対しての寄付は受け取らないと思いますが、その頃は消防署からライオンズクラブに「消防車が 1 台欲しい」と言ってくる時代でした。うちとしても宣伝として贈ってもいいということで、クラブ名の入った消防車を寄贈しました。

L 渡辺 クラブにあまり余裕がなかった時は、街頭に出て小学生に下敷を配ったりしました。交通安全に関するもので随分作りました。

L 清水 雨に降られて帰る人のために、駅にクラブの名前の入った傘を置いて貸し出すこともしました。

L 丸山 当クラブは吉祥寺東急インが例会場になっていますが、当初はどうだったのですか。

L 渡辺 最初は武蔵野公会堂の裏にあったボーリング場の 2 階で開いていました。清水さんの清鳳閣でも一時開催していました。

継続事業は必ずしも 「力」ならず

L 丸山 最近のアクティビティについて、何か感じられることはありますか。

L 清水 アクティビティはそもそも、できる限り趣向や相手先を変えていく。それを考えるのがライオンズクラブであって、継続的に行うのは間違いなのです。一般的には一度始めたら続けますけれどね。今はほとんど継続事業的になっています。それはクラブの頭脳の集団には似合わない。何のために優秀な人が集まっているのかわからない。しかし今、そうせざるを得ないのは、昔に比べれば皆さんが豊かになったからだと思うのです。色々な福祉事業も、国がしっかりしているからやることがなくなってしまった。

L 渡辺 要するに清水さんの考え方は、継続事業はそれほど賢いやり方じゃない。やはり年度毎に特徴あるアクティビティをすることが大切で、毎年同じ事を繰り返すのはいかなるものかという考えなんですよ。

L 清水 継続事業が増えて、「何とか会の御用クラブ」になってしまった点は否めない。



昭和53年頃 献血運動が盛んだった

L 渡辺 「金一封事業は事業じゃない」ということを言いたいですね。

L 丸山 50周年の大きな節目で、立ち止まって振り返る事は大切です。

L 渡辺 「いったいライオンズって何なんだろう」「アクティビティって何なんだろう」と皆さんで考える時間を例会で持った方がいいのではないかと。そうすれば真剣に「ああだ、こうだ」と言い合える。「ああだ、こうだ」というのが楽しいんですよ。今年は50周年で難しいけれど、通常の年では「ライオンズを皆で考えよう」という機会を年に1～2回、例会で持ってくると嬉しいですね。



昭和52年頃の例会集合写真

寛容は求めるものではなく 与えるもの

L 丸山 最後になりましたが、次の50年への提言をお聞かせいただきたいのですが。

L 渡辺 私はクラブに32歳で入会しましたが、すべてが勉強でした。例会に義務感で出たことはありません。喜んで出ていましたよ。色々な人と接することができるので。

L 清水 今は皆さん本当に凄いなと思いますよ。われわれが若い頃は、もっと自分の楽しみをある程度優先していましたからね。

L 渡辺 最近は大変ですね。よく頑張ってる。忙しくし過ぎている。

L 清水 きちんとやり過ぎると固くなりすぎて良くない。「アバウト」って言葉をよくライオンズでは使いますよね、そんな感じでやった方がいい。

L 渡辺 それは「良い加減」ということ。ただ「良い加減」というのも難しいですよ。

L 清水 アバウトな人に「アバウトで」って言うちゃいけないけどね（笑）。アバウトじゃない人に「アバウトで」と言うべきだと思います。

L 渡辺 ライオンズの誓いに「友愛と相互理解の精神を養い」とありますが、当初は「友愛と寛容の

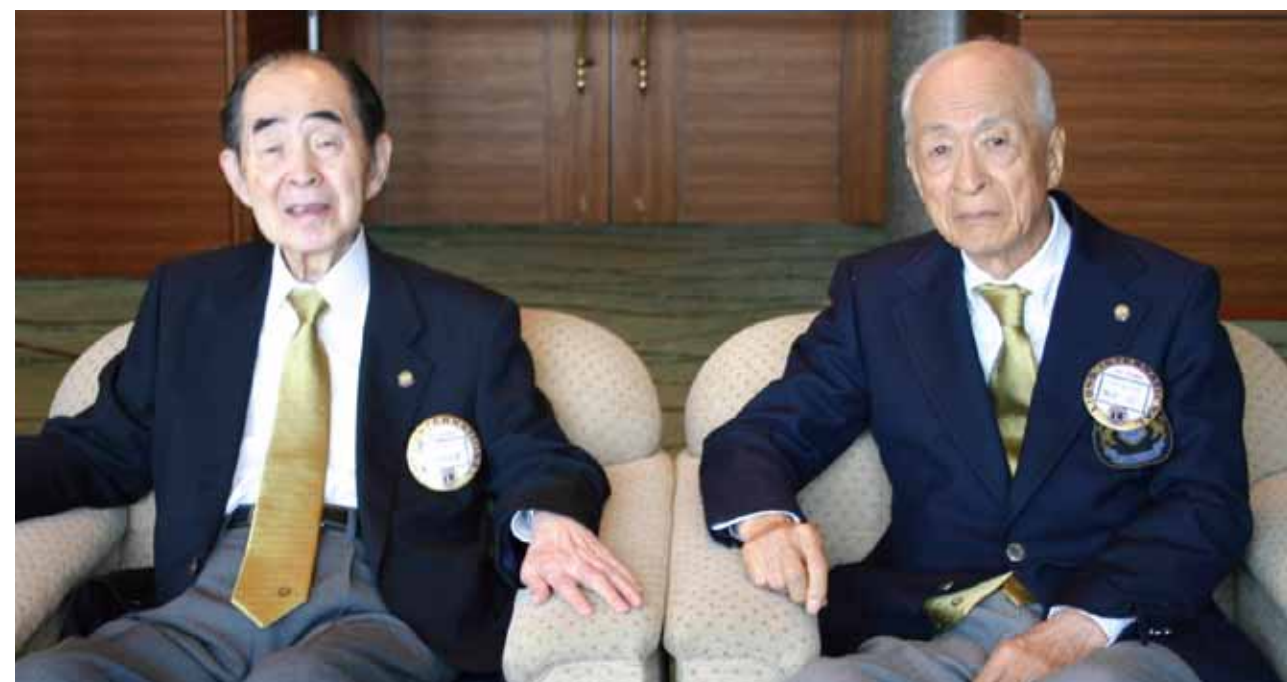
精神を養い」だったんですよ。ある時期から「相互理解」というややこしい言葉に変わったのはなぜか。良い意味での「いい加減節」がなくなったから。「友愛と寛容の精神を養い」というのはいい言葉です。しかし寛容だから、出鱈目をするということになってしまった。もっときちっとしなきゃ駄目だということで「相互理解」という、よくわからない言葉を持ってきてね。何か失敗しても「寛容だよ」と言ってチャラにする。それを思わしくないと言って「相互理解」と入れ替えてしまった。

L 清水 寛容と言うのは、自分のいいように解釈するものではありません。寛容は求めるものではなく、与えるものなんですよ。

L 渡辺 寛容の精神で皆を許し合うことに戻ると、さらに、いいクラブになると思います。

L 清水 「寛容の精神で許して下さい、すみません」って、これでうまく収まっていたからね。

L 丸山 良い加減でお話がまとまりました。本日はお忙しい中、貴重なお話を本当にありがとうございました。



特別対談 ②

地域を越えた “We Serve” 〈フィリピン・ダバオ支援〉

“学校” という器だけでなく、中身までバックアップした実り豊かな事業

チャーターナイト 25 周年事業の一環として手がけた、フィリピン・ダバオ日本語学校の贈呈は、クラブの長い歴史の中でも特筆すべきアクティビティです。これに深くかわり、贈呈使節団の一員でもあった L 渡部法雄と L 小林利治に、ダバオに対する想いを伺いました。（司会は L 秋田克之）



L 渡部 法雄



L 小林 利治

先端を切って政府を動かす 起爆剤になる

L 秋田克之 フィリピン・ダバオへの支援はクラブの“大いなる伝説”とも言える活動ですが、そもそもどのような経緯で関わるようになったのでしょうか。

L 渡部法雄 ダバオの日系人に関する厳しい状況は、フィリピンで生まれ、当時クラブのメンバーであった平原定志（フィリピン日系人友の会会長）さんや内田達男さんから伺っていました。一方で、中国の残留孤児は政府が手厚い支援を行っていたにもかかわらず、フィリピンについては何もしていない。「このままでいいのか」という思いからクラブに支援を提案しました。

L 秋田 その時、メンバーの反応はいかがでしたか。

L 小林利治 当初は賛成と反対が半々でした。反対があったのは悲惨な状況を知らなかったからで、日系二世や三世の支援がなぜ必要なのか疑問視された。説明してすぐ分かってもらえました。

L 秋田 ライオンズの一クラブが日本を飛び越えた支援をするのは、かなり大胆な発想だと思いますが。

L 渡部 小さな枠に囚われなくて、手を差し伸べるのを待っている人がいるなら、クラブとしてはやるべきだという考えです。

L 小林 当時は献血運動が大きな事業でしたが、時代が変わって必要性が薄れてきました。フィリピンは顧みられていなかったもので、先端を切って政府を動かす起爆剤になろうと動き出しました。

L 秋田 支援方法として日本語学校を設立する狙いは何だったのでしょうか。

L 渡部 日本語を習得することで、日本との関係を深め、先進的な知識や技術を学んでもらう。技術的・経済的に自立し、フィリピンの発展にも役立つ人材が育成できるので、大変有意義なことだと思いました。

奉仕以上のものを 返していただいた



L 秋田 渡部さんがクラブの会長だった 1989 年 4 月に、現地で贈呈式が行われました。

L 渡部 集まってくれた全員が涙を流してお礼を言ってくれました。さらなる支援が必要だと強く思いました。

L 小林 330 万円で学校は作ったが肝心なのはその後。当時、日本語学校は土日しか開校していなかったし、給料も含めた先生の手配はどうするのか、といった問題が出てきて、やはり中身まで面倒を見る必要がある。教師用に年間 30 万円の手当を援助しました。

L 秋田 この時のクラブの支援がなければ、残留し

た日系人は、さらに何年も苦しい思いを続けていたでしょうね。

L 小林 日本語学校はその後小学校から中学、高校、さらに大学へと発展し、日比両国の親善にも大変役立っていると思います。

L 秋田 最後になりますが、この事業に関わった感想をお聞かせ下さい。

L 小林 小さい一つのクラブが学校から始まって記念の音楽堂、資料館まで手がけた。つまり第二、第三の矢を放ち、しかもその維持費まで用意したということで、当初の目的は十分に達せられました。今は吉祥寺クラブさんが担当されていますが、いい形で引き継いだと思います。

L 渡部 奉仕事業なのですが、逆にそれ以上のものを返していただきました。感謝と喜びでいっぱいです。大げさかもしれませんが、地上の人間のあるべき姿を見せてもらった気がします。

L 秋田 若いメンバーとしても、より良いアクティビティを探し続けなければならないと、思いを新たにされた素晴らしいお話でした。本日はありがとうございました。



■ 獅子の夢基金（地域アクティビティ委員会）

ボランティア団体や福祉施設の活動を、物品提供でバックアップ

NPO 法人を中心としたボランティア団体や福祉施設への助成金支援事業は、奉仕活動を実施継続するための設備や備品等が資金不足のために購入できず、活動が思うに任せられない点の解消を目指しました。そこで、武蔵野市民社会福祉協議会に窓口業務をお願いし、市報に案内を掲載して希望者を募りました。



L 櫻井 正巳

地域アクティビティ委員長時にスタート

地域アクティビティ委員会の委員長をしている時に始めました。今は助成金を中心ですが、当時は現物が主でした。リクエストのあった物品がボランティア団体の元に届いたら、クラブのシールを貼っていただく方法をとっていました。印象深い品はコピー機でしょうか。20～25 団体くらいから応募があり、委員会で申請内容や実際にその団体を訪問したうえで検討を重ね 10 団体に寄贈。結構リクエストが来たから需要はありましたね。実際にメンバーが団体を訪れることで、地道な奉仕活動の大切さを話し合う機会にもなりました。地域を大事にするというクラブの精神に則た活動でした。



L 秋本 清

市外への助成で活動の広がりを実感

最も印象に残っているのは武蔵野市の風の子保育室に、柵付きのリアカー式台車を贈ったことです。主に園児が散歩する際に使っているとのこと、近所ですのよく見かけます。交通量の多い地域ですので、園児を守る安全な乗り物としてもお役に立っているようです。

荻窪の東京衛生病院には、中古のピアノを寄贈しました。病院から演奏を披露するという連絡があり、お邪魔し演奏が始まると、患者さんがその音色を聞きつけ、病室から次々に集まって来られました。入院されていると気持ちが沈みがちになりますが、ピアノの音で心を癒されているのがよくわかりました。市外の施設への助成でしたが、活動の広がりも実感しました。

窓口業務を担当した武蔵野市民社会福祉協議会のチラシ

東京武蔵野ライオンズクラブの助成 「獅子の夢基金」が社会奉仕活動を応援します!!

「東京武蔵野ライオンズクラブ」は、その最大の目標を社会奉仕活動におく団体です。今年もこの活動の一環として、社会奉仕活動をしている団体に、物品購入資金を助成いたします。昨年度は4団体が合計117万9千円の助成を受け、購入された自動体外式除細動器(AED)やカラーレーザープリンターなどがそれぞれの団体で有効に活用されております。今年度も、各団体の活動が充実することを願って、多数の応募をお待ちしております。問い合わせ、応募は市民協までどうぞ。

- 応募資格：武蔵野市および武蔵野市に隣接した区や市において、社会奉仕を目的に運営している団体で、物品購入資金が不足している団体
- 助成内容：団体が行う奉仕活動のために必要な物品等の購入資金で、次の条件を全て満たすもの
①土地または建物等に、定置または定置して使用する物品等
②耐久消費財で、物品等の総費用が100万円以内であること
- 助成金額：総額120万円以内
- 応募方法：所定の応募書類に必要事項を記入の上、市民協に提出（郵送可）
※応募書類は市民協にて配布
- 募集期間：10月2日（月）～11月30日（木）※当日消印有効
- 通知期限：平成19年2月上旬に、東京武蔵野ライオンズクラブより応募者全員に郵送で通知します。

東京武蔵野ライオンズクラブの活動

本年度で設立42年目になり、長年にわたり武蔵野市を中心に奉仕活動を行い、市内福祉施設等に物品寄贈、助成金交付、駅前での災害募金活動、海外の日系人学校等の建設資金援助など、様々な奉仕活動を行っています。

助成応募団体一覧実施例 CN43 年度分

No.	団 体 名	希 望 物 品 名	金 額 (円)	備 考
×1	*****	ヤマハ電子ピアノ		選外 *52,500
2	手話ダンス交流会 ボヌール	MD 等一体型デッキ、ラジカセ	35,500	
×3	*****	マリンバ		選外 *680,000
4	東京衛生病院ホスピスボランティア アンジェラ会	アップライトピアノ	267,000	
5	朗読奉仕の会 むさしの	ブレクストークポータブルレコーダー他	285,000	
6	トポスの会	ノートパソコン	85,351	
7	NPO 法人 武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会	デジタルカメラ	27,800	
8	障害児保育グループ いっぽ	デジタルカメラ他	84,601	
9	NPO 法人 クリップクラフト	プロジェクター	189,800	
計			975,052	



■ 武蔵野市や災害地へも貢献しています

チャーターナイト 45 周年に
AED を 4 台武蔵野市に寄付



新燃岳災害義捐物資として
粉塵対策の子供用マスクを提供



■ 留学生の小さな冒険（国際アクティビティ委員会）

日本の風土・文化・伝統への触れあいを応援

武蔵野エリア 6 大学（亜細亜・国際基督教・成蹊・東京外国語・東京女子・武蔵野）に通う留学生を対象に、自らが企画した小旅行を通して、日本の風土・文化・伝統に触れあうことを応援したのが「留学生の小さな冒険」です。旅行後の発表会で楽しそうに経験談を語る学生たちを見ると、貴重な思い出づくりに協力できてとても良かったと思います。



L 丸山 信一

母国と日本の架け橋となれるように

2006-2007 年度の国際アクティビティ委員長として、L 秋本清会長の元、企画から発表会まで担当しました。終了後の発表会で、何を見て、聞いて、感じて来たのかを報告してもらいました。北はアイヌ文化、西は原爆ドーム、南は戦争と基地。それぞれ赴いた先で、私たち日本人が知らないことまで、深い探究心を持って学んでいただきました。留学生からの報告書の最後には、この企画への謝意と「母国と日本の架け橋となれるようにがんばります」との決意が記されていました。

日本に留学するだけでも、大きな冒険である若い子たちに、新たな冒険のチャンスを贈ったことで、クラブメンバーは大きな感動を頂きました。



■ YE 生受け入れ

交換留学生に“日本そのもの”を味わってもらう

ライオンズクラブは国際交流の一環として青少年育成プログラム YE（Youth Exchange の略）プログラムを行っています。これは希望する高校生や大学生がクラブを通じて推薦を受け、交流のある国・地域のクラブメンバー宅にホームステイする制度で、YE 生とはその交換留学生のことです。



L 高橋 勇

今もメールなどで交流が続く

クラブに入会して、最初に主体的に取り組んだ事業が YE 生の受け入れでした。年に一人ですが、オーストラリア、ニュージーランド、ペルー、米国など 5 名の交換留学生のお世話をしました。期間は 20 日間ほど。年末年始に来ることが多く、日本文化を味わいつつ、日常の暮らしにも触れてほしかったので、スキーや温泉に連れて行ったり、自宅にいる時は台所の手伝いや庭の掃除、買い物に行ったりしました。また、妻が着物が好きなので、着てもらったりお土産に持たせたりしました。十分楽しんでもらったと思います。今もメールなどやり取りが続いている留学生もいます。この事業のおかげで、私自身クラブの必要性が認識できたし、私の家族も留学生を通じてクラブの活動を理解する大きな一助になりました。



■ 街頭募金活動

素早い行動力とクラブの信用力が大きな力に

自然災害に見舞われた被災地への義捐金は、主要なアクティビティですが、1995 年の阪神・淡路大震災以降、本格的に街頭募金を始めました。以後、国内外を問わず大きな災害が発生した際は、直ちにアクションを起こしています。街頭に立って実感させられるのがクラブの信用力。寄付される方の多くが「ライオンズだから大丈夫よね」と仰って下さる。クラブとそのメンバーであることを誇りに思う瞬間でもあります。



L 原田 啓助

緊急理事会招集の日から1週間、朝9時から夕方5時まで募金活動

阪神・淡路大震災が発生したのは、私が幹事の時でした。すぐに募金活動を開始したいと思い、事前に警察署の許可を取得、垂幕と募金の箱を用意して、経営している大鵬本店の2階で緊急理事会を招集しました。メンバーの方達に趣旨を説明し「今から始めます」と伝え、多少面食らう方もいたようですが、そこはクラブの良いところで直ちに動いて下さいました。賛同が得られなければ自分ひとりでもやるつもりだったので、とてもありがたかったです。

その日から1週間、朝9時から夕方5時まで吉祥寺駅の北口に立ち続けました。

寄付のあり方を考えさせられた“神戸の現実”

総額 500 万円を超える浄財が集まり、武蔵野市長を通じて日本赤十字へ寄付したのですが、一つだけ検証したい点があります。それは直接被災地に送金した方が良かったのではないか、ということです。昨年神戸にお邪魔したのですが、完全に復興したように見えて現実、有名な商店街さえいわゆる“シャッター通り”になってしまっている。行政指導の結果、“箱物”優先で、かつてのにぎわいが失われてしまったと、地元の方々は口々に仰っています。道路幅の拡張など良い点もありますが、寄付のあり方についても考えさせられました。



L 中村 久文

声掛けのコツは上手な人に続くこと

初めて参加したイラン地震の 때가最も印象に残っています。それまではサラリーマンだったので、メンバーとしての活動らしい活動はしていませんでした。本当の奉仕活動はその時が初めてと、いいでしょう。

街頭募金はいかに声を出すかが重要なポイント。最初はどのようにいいかわかりませんでした。当時の先輩に上手な人が3～4人いて、その人のリードで後について声を出していたら抵抗がなくなりました。上手な人は何のための募金なのか、大きな声でしっかり簡潔に言って、最後に「お願いします」と締める。下手な人が無理にやろうとするよりは、上手い人が何人かやっているのに続いて発声した方がいいですね。今ならリード役もできるでしょうが、本来は声が大きく、よく通る人が担当するのがベストです。



L 後藤 登

寄付された方の気持ちも被災地にお届けするのがクラブの使命

入会して間もない頃のイラン地震の 때가印象に残っています。正月の4日に行ったのですが、ある方から「ライオンズなのだから街頭募金などせず、自分達でお金を出しあって寄付すればいいじゃないか」と言われました。その時は「われわれ自身が街頭に立って皆さんの善意をいただいて、困窮されている方々にお送りする、それもひとつのライオンズの活動です」とお答えしましたが、今回の東日本大震災の被災地訪問で思いを新たにしました。送らせていただいた義捐金が少しでもお役に立っていることを実感できましたし、寄付していただいた方の気持ちも募金箱に入っている、それを被災者や被災地にお届けする。メンバーだけでなく、地域の気持ちをライオンズがまとめて届ける一助になっていると思いました。



■ JC 合同例会と総括

朝の7時から先輩のダメ出しに、人として鍛えられる



L 稲垣 英夫

幹事時代に JC との合同例会スタート

35 歳で入会し、クラブでの活動も 37 年を数えます。「We Serve / われわれは奉仕する」の精神を先輩方から教わるとともに、メンバーとの交流による人とのつながりも大きな財産になっています。お引き受けしたサンロード理事長や活性化協議会会長、商工会議所会頭の仕事も奉仕の精神が基盤です。

最も印象深いのは、JC（青年会議所）と合同例会を始めたことです。それまでは個別に JC 会員をクラブの例会にご招待したことはありましたが、ライオンズと同じような志を持った団体なので、まずはクラブを知っていただき、その後興味を持った方に入会していただこうと企画しました。ちょうど私がクラブの幹事と JC の例会担当理事を兼任していた 1982～83 年のことで、当時の L 渡辺正一会長に「合同で例会をやったらどうでしょう」

とご相談したら、「それはいいことだ」と賛同していただきスタートしました。ただ会合をするだけでなく、講演会を同時に行った方が集まりやすいということで、太平洋戦争で“撃墜王”として名を馳せた方にお話してもらいました。その結果、情報交換や人脈交流が活発になり、JC 時代の同期は全員クラブに入会してもらえました。

しかし、入会当初はあまり真面目な会員とは言えなかったですね。本気になったのは幹事になってからで、いろいろ勉強させていただきました。何しろ朝の 7 時くらいから先輩方の「あれはどうなったんだ」と、懸案事項に関する確認の電話がかかってくる。昔は一生懸命やって当たり前で、ちょっとミスしたら「それはまずいんじゃないの、なにやってんの」と注意されました。でもそれで鍛えられたし、人として成長できましたね。

クラブの歴史 - 2

(2009～2014 / CN46～CN50)



明日に向かって積極果敢に

CN46 年度から 50 年度。つまりこの直近の 5 年間は、クラブの長い歴史の中でも、例を見ないほど新たなチャレンジを重ねた時期でした。

2010 年初開催の「こいこいパーティー」を皮切りに、東日本大震災後に実施した「アニソンスマイルチャリティコンサート」では、収益金を被災地小学校への必要物資支援に役立てました。他にも恒例事業となった地元の留学生支援やチャリティーゴルフも、それぞれに力強く進化していきました。さらに、映像クリエイターの支援・育成を目的とした斬新な競技会「ムービンピック」を共催するなど、チャレンジスピリットは枚挙に遑がありません。

■ 東日本大震災での “We Serve”

続けていくべきの被災地支援活動

2011 年 3 月 11 日、日本周辺における観測史上最大の地震が起きました。災害規模は過去に例を見ない大きさで、日本中が大きな悲しみに包まれました。被災地支援のために何ができるのか？ 当時から継続して考え、クラブとしても奉仕活動を続けています。

◇街頭募金活動

●3 月 27 日（日）吉祥寺サンロード入り口付近にて「東日本大震災」救済街頭募金活動を行い、446,110 円の募金を集める事が出来ました。当時はまだ大混乱している中でしたが、直接送金可能な自治体を調べ、気仙沼市、名取市、相馬市、いわき市の 4 被災地と連絡を取ることが出来、「一刻も早く現金が必要」との声を受け、クラブ予算からの資金を足した各 20 万円（総額 80 万円）を翌日すぐに振り込みました。この後、日赤に届いた義捐金が滞っていると報道されましたので、この対応でよかったと思えました。



L 小笠原 耕司

チャリティコンサートで明るい話題提供

東日本大震災の時の会長が私でした。災害規模の大きさに戸惑い、余震や原発事故での 2 次災害の危険性もありましたが、クラブ伝統の街頭募金実施の決断をいたしました。その後、日本中が自重ムードでのイベント中止が相次ぎましたが、こんな時こそ明るい話題をと思い、アニソン歌手を集めたチャリティコンサートを企画しました。クラブメンバーが一丸となり、業界関係者の協力も得て、1000 人以上を集めた一大イベントを成功させた感動は、今も忘れることが出来ません。この時の収益金で、被災地の小学校が希望する援助物資を送りましたが、その後、生徒さんからのお礼の手紙も届き、これを見ながら涙ぐんでいるメンバーもいました。このイベントの後に、アニソンキャラバン隊の被災地訪問ライブが実行されたとも聞いていますので、いいきっかけ作りにも繋がったと思います。



◇50 周年の年に被災地視察を

●クラブの有志を募って、被災地まで出かけてきました。最初に相馬市の磯部小学校にパソコン用のインクや用紙を寄贈して、相馬市役所訪問では副市長自ら現在の復興状況を説明くださいました。翌日は南三陸町をスタートに、気仙沼市・大槌町を訪ねて、それぞれのガイドさんに当時の様子や復興状況をお聞きしました。各地域それぞれに課題を抱えていることを知り、やはり実際に現地を訪問する意義を感じた有志一同でした。



L 藤間 仁章

被災地をクラブメンバーで訪問

どうしても東北支援がしたい！これには感動的な思い出があるのです。震災 2 日後の 3 月 13 日。文化交流使節としてポーランドに行きました。ホテルまでのタクシーでは運転手が「日本人からお金は貰えない」と料金を受け取りません。会場の玄関には、日本への弔意を示す半旗が掲げられています。カーテンコールではお客様が立ちあがり手を振ってくれています。拍手も鳴り止みません。さらにレセプションでは募金を集めて「これを日本に持って行ってくれ」とまで…。涙が止まりません。

50 周年の記念アクティビティの一つに東北支援が掲げられました。全員の熱い想いが実現に向けて発進したのです。こういう活動は速くやらねばなりません。議論より行動です。奉仕団体ならではの機敏で多岐に渡る支援活動を続け、東北訪問が行えた事を礎として、我々は絶対 3.11 を忘れない！このメッセージを送り続けることこそ、クラブの責務とも言えましょう。



相馬市役所内のコーナーです



相馬市立磯部小学校にパソコン用のインクなどを寄贈しました



相馬市の副市長さんのお話が聞けました



気仙沼市ではコンビニートが流されて被害拡大の話も



南三陸町ではボランティアの方にご案内いただきました

■ 東日本大震災での “We Serve”

『東日本大震災支援 アニソンスマイル チャリティコンサート』

2011年6月3日(金)中野サンプラザホールにて、1000名を超える来場者を集めたチャリティイベントを開催しました。当日はアニソン歌手 26組とゲスト 2名の豪華なステージで熱く盛り上がり、チャリティ支援金総額といたしましては、

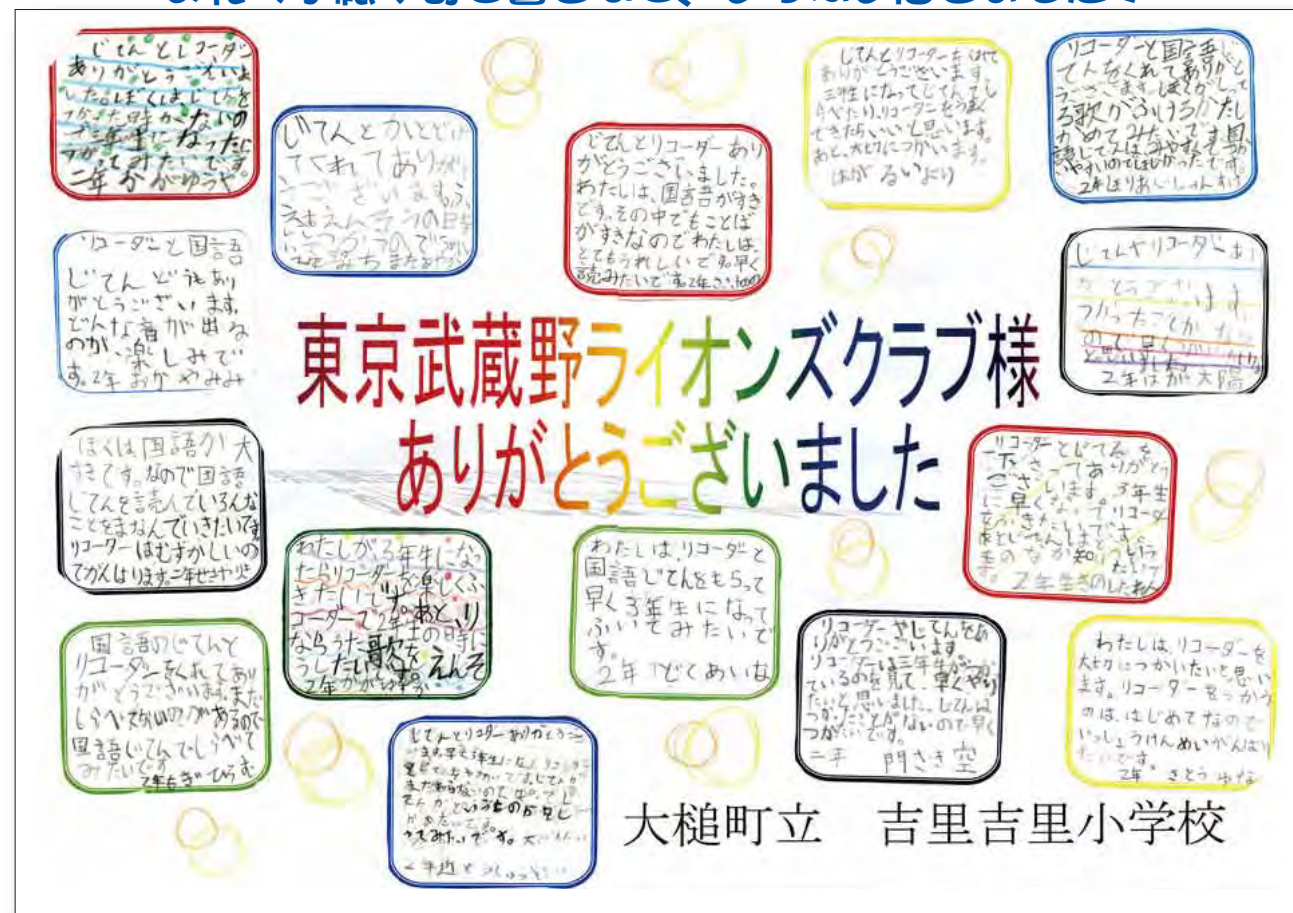
◇チケットからのチャリティ費用	915,300 円 (1017 枚 × 900 円)
◇会場チャリティ	297,396 円
◇Tシャツ等販売費	177,400 円
合 計	1,390,096 円 が集まりました。



気持ちの込められた支援金は、被災地の小学校へ直接連絡を取って、ご要望いただいた品を寄贈するため役に立ちました。「楽器」「なわとび」「サッカーボール」「扇風機」「プロジェクター」等の品は、被災地の岩手県／大船渡市立盛小学校・釜石市立唐丹小学校・大槌町立吉里吉里小学校・陸前高田市立竹駒小学校・陸前高田市立広田小学校、宮城県／名取市立関上小学校・岩沼市立玉浦小学校・亘理町立荒浜小学校・多賀城市立多賀城東小学校・石巻市立大川小学校、福島県／相馬市立磯部小学校・相馬市立中村第二小学校にお送りしました。

また、このイベントはメディア関係にも注目され、共同PR社調べの広告換算額は、12億3800万円にもなり、アニメを絡めた震災支援の先駆けとして、大きな功績を刻むことになりました。

お礼の手紙や寄せ書きなど、いっぱい届きました！



Tシャツ販売も大好評



アニメ業界の重鎮、手塚プロダクションの松谷社長自ら義捐金を



邑上市長や当時の河合地区ガバナー・大石地区ガバナーエレクトも舞台上に



フジテレビの取材も入りました

■ こいこいの集いパーティー（地域アクティビティ委員会）

知的障がい者と保護者の方々に楽しいひとときを用意

2010年5月にスタートした「こいこいパーティー」（翌年から「こいこいの集い」に改称）は、知的障がい者とその保護者の方々を招き、ライブパフォーマンスや懇親会、ビンゴ大会などで楽しい時間を過ごしてもらう新しい企画です。毎年5月の大型連休明けの土曜日に開かれ、150名を超える参加者を集めています。ちなみに「こいこい」というネーミングの由来は、「鯉（こい）のぼりの季節に来て（こい）ほしい」という思いを込めたものです。



L 吉田 宗一郎

将来は成人式も実現したい

新しいアクティビティを探す中で、成人した知的障がい者とその保護者のご苦労をテレビで見て、特に保護者の皆さんが大変な思いをされていたので何とか援助したいと思いました。開催して良かったのは障がい者自身に楽しんでもらえた。保護者の方達に、クラブが奉仕団体で応援していることを認識してもらえた。そしてメンバー自身が奉仕しているという気持ちになってくれたことです。今後は成人式に出席できない障がい者の方が少ないので、それをクラブで実現したいですね。



L 田辺 文彦

継続することが心の触れ合いにつながる

保護者の方からはイベントのチラシやポスターのデザインを出来る限り変えないでくださいと言われています。そのデザインで集まりそのものを記憶しているし、招待カードを作るとそれを大事にとっておいて日程を忘れないでいてくれる。参加者もだんだん顔を覚えてくださり、最寄りの駅前で声を掛けていただいたこともあります。継続することによって毎年楽しみにしてくれる。継続することが心の触れ合いにつながっているのので、できるだけ長く続けたい事業ですね。

第1部 ライブパフォーマンスの数々



第2部 笑顔のあふれる懇親会タイム



■ お月見例会&バス旅行（国際アクティビティ委員会）

武蔵野の留学生に日本の文化を味わってもらおう

武蔵野エリアの 6 大学（亜細亜・国際基督教・成蹊・東京外国語・東京女子・武蔵野）に通う留学生を対象にしたアクティビティは、弁論大会を源流に「留学生の小さな冒険」「お月見例会」「バス旅行」など幅広く展開されています。なかでも「お月見例会」は年 1 回、9 月に留学生約 80 名を招き、L 高橋勇のご自宅の庭で開かれている国際交流会。「バス旅行」とともに、留学生に日本の文化を体験してもらい、良い思い出を作ってもらおうという試みです。



初体験の盆踊り



野点の抹茶に舌鼓



L 西宮 忠

メンバーの奥様や家族も協力

留学生には浴衣を用意して着てもらい、盆踊りや花火、バーベキューをする。互いに写真を撮ったりして大はしゃぎです。私が担当した時はお寿司屋さんに出張してもらったのですが、回転寿司ではなく、職人さんがその場で握った寿司を食べてもらい大好評。そのお寿司屋さんの大將が「むさしのばやし」の太鼓を担当されているのですが、櫓の上で太鼓を打っていただきました。メンバーだけでなく奥様やご家族もすいとんを作ったり、踊りの指導など、色々協力してくださっています。



L 大谷 直

定員の枠を超え参加希望があった大学も

2009 年 11 月に日光へのバス旅行を企画しました。各大学から参加者を募ったところ 80 名が参加、バス 2 台で出掛けました。東照宮から江戸村へと見学だけでなく、武将姿など昔の衣装を着る機会も用意しました。留学生からは「日本文化を体験でき、貴重な思い出ができた」と喜んでもらえました。その 3 年後により近くの鎌倉や横浜の赤レンガ倉庫にも出かけました（74 名参加）。しばらく実施していませんが、個人的には違う形でバス企画や小旅行があってもいいと思っています。



L 清水 宏益

実働型のアクティビティは新人には最適

クラブ外に対するアクティビティとしては「お月見例会」が最も印象深いですね。われわれが取り組んだことに対する反応をその場で感じられ、非常に達成感や「楽しいなあ、こういうことをやっていくんだなあ」と思いました。また、実働型のアクティビティに参加するとメンバーに馴染むのが早くなりますね。準備の時に、これまであまり親しくなかった人とも話せて、皆さんと仲良くなれる。新人には格好の舞台だと思います。



日光東照宮にて



日光江戸村にて

■ムービンピック（広報・武蔵野コンテンツ委員会）

コンテンツビジネス発信の街のクリエイティブ魂をバックアップ

武蔵野は作家・クリエイターやアニメプロダクションが多数集まる、コンテンツビジネス発信の街。クリエイティブ魂をバックアップするべく、2012 年から始まったのが「むさしの吉祥寺映画フェスティバル」と、その中核の 24 時間映画制作競技会「ムービンピック」です。この新しい活動を武蔵野 LC が応援しています。



審査委員長の日本映画協会布川理事長より初代金賞受賞者の上垣監督へ



└ 秋田 克之



└ 岩村 昭英

映像クリエイター憧れの地「武蔵野」に！

完成作品を集める映画祭は数多存在していますが、それらを創り出す人材を集めて、地域の人たちと協力しながら映像作品を完成させるイベントは耳新しいですし、武蔵野にピッタリの企画だと思いました。可能性を秘めた才能を集め、育てていくお手伝いは、「ライオンズがすべき奉仕活動なの？」って。武蔵野から羽ばたいた、武蔵野を愛する才能が、世界を感動させる日のために “We Serve” 「ライオンズだからこそその奉仕活動」だと思ふのです。

クラブやメンバーの協力が成功の源

「コンテンツの街」をいかにアピールするか。ビジネスとしても芸術面から見ても映画祭の開催が最も影響力が大きいと考えました。ただ他と同一ような内容では意味がないので、武蔵野を舞台に 24 時間以内でショートムービーを作る競技会に発展していきました。当然クラブ内だけでできる企画ではなく、外部のプロに協力してもらいましたが、クラブや個々のメンバーの人脈がなければ実現しませんでした。今後はキャビネットの評判も良いので、他のクラブ全体も巻き込んでいく方法を模索したいです。



スタート前、緊張感が漂う打合せ



二代目金賞受賞者の吉本監督



■ チャリティーゴルフ（資金アクティビティ委員会）

プロゴルファーや有名人を招きオークションも実施

1970年代半ばに始まったチャリティーゴルフは、95～96年度頃から毎年10月の第一月曜日に開催されるようになりました。メンバーの紹介があれば誰でも参加でき、60組・240名の出席者を数えます。以前からリピーターが多く好評でしたが、ここ数年はプロゴルファーや有名人を招きオークションも行われるなど、話題に事欠きません。



忙しいツアーの合間を縫って参加いただいた北田瑠衣プロ



ワンポイントレッスンもしていただいた山口裕子プロ



ゴルフ解説で有名な戸張捷さんの講演も大好評



L 木下 昇



L 笹川 裕司

ゴルフ場の協力も好評の一因

2002年から東松山カントリークラブで行っています。参加者の募集はメンバーが個々に声掛けするのが基本で、お願いしますと二つ返事でOKしてくれているようです。クラブの目標は60組・240名。ゴルフ場もチャリティーの中身を把握しているので、全体の流れや料理も良く、賞品も含めて参加者に満足してもらっています。リピーターが多いのはその証左でしょう。

北田瑠衣、山口裕子両プロも“参戦”

私のゴルフの師匠であるプロキャディーの新岡龍三郎氏に頼んで、2012年には北田瑠衣プロをゲストに招きました。その時は東北支援がテーマでしたが、女子プロも同様の活動に意欲的で気持ちよく引き受けていただきました。昨年も山口裕子プロを招いて、ショットやパターなど重要な点をチェックしてもらったワンポイントレッスンを時間の許す限り行いました。

クラブの歴史 - 3

（クラブライフ・楽しい交流録）



深まった絆は“まさに人生の宝物”

人と人とのつながりが基盤であるクラブにとって50年の歴史を重ねるには、真面目な奉仕活動だけでは難しく、楽しい集いを企画したり、趣味を同じくする“同好会活動”の存在が大切です。

ここでは、楽しいクラブライフとしてまとめましたが、ただただ楽しんでいるだけではなく、メンバーそれぞれに新たな発見があり、人脈のさらなる広がりにもつながっているのです。

■ 旅行例会（計画委員会）

お互いに新たな魅力を発見する、春の旅路です



L 高根 啓

メンバー間の親しみが増す 大きなチャンス

年 1 回、一泊二日の日程で開催されていますが、今年 3 月（伊豆）に初めて参加できました。予想していた通り本当に良かった。それまであまり交流のない人とも親しくなれる大きなチャンスです。旅行に出かける前後では、当然メンバーに対する親近感が増し、話の中身が広がったり深くなります。また、ライオンズに対しての思いがそれぞれ違うことに気づき、それを踏まえて話し合いの進め方が変わっていくことも知った、とても有意義なイベントでした。



■ 納涼例会（計画委員会）

話題のスポットを、家族と一緒に楽しんでいます



L 志賀 且典

親子 3 人で参加できた時は とてもうれしかった

子供が生まれ、親子 3 人で参加できた時はとてもうれしかったです。普段はなかなか近所の子供たちと遊ぶ姿を目にしません、会員のお子様たちと楽しく過ごすのが子を見ることができました。印象深いのは、屋形船やぶどう狩りの後のバーベキュー（山梨）、東京湾花火大会、海上から大パノラマを眺めながら見所を巡る東京湾クルーズ、スカイツリー、大迫力のサーカス鑑賞「シルク・ドゥ・ソレイユ」など、どれも楽しい思い出です。



■ クリスマス家族例会（計画委員会）

さまざまな楽しみを盛り込んだ、ワクワクの聖夜



L 長谷部 繁

豪華な賞品もモチベーションアップに

初参加の時は結婚する前でフィアンセを連れて行ったのですが、長瀬雄一 L から「お友達」と紹介されたのが記憶に残っています。翌年 1 月に結婚。その年のクリスマス例会も共に出かけて「お友達から家内になりました」とコメントしました。数少ない家族で参加できるイベントなので良いですね。またビンゴなど豪華な賞品が用意されているのが、特に女性には好評で、次の年も行きたいなというモチベーションアップにつながっています。



L 田崎 耕作

メンバーの家族の出席は有意義な機会

当クラブは女性が参加していないので、クリスマス家族例会に女性を含むメンバーの家族が参加するのは非常に意義があると思います。家族が来ていると和やかな感じを受けます。プレゼント交換やビンゴ大会で盛り上がっていますし。入会して 6 年目ですが、ライオンズの一員であるという意識も深まります。今後も他のアクティビティにも積極的に参加していきたいですね。



親子でライオンズ



L 藤原 廣彦

仕事が大好きな父でしたが、木曜日の夕方になると LC のバッジを取り出し、笑顔で身支度を整えている父の姿を今でもよく憶えております。何がそんなに父を夢中にさせたのでしょうか？

入会 1 年目の私は、今後は楽しみです。



■ ゴルフ同好会

通常例会よりも出席率がいいのでは？



L 長瀬 雄一

横のつながりを強くする大きな役割

クラブ内で最も参加者が多く、メンバーの半分が入会しています。年に 4 回開催。プレー中もアフターゴルフの時も皆さん本音が出たり、情報交換も活発になるので、メンバー間の横のつながりを強くするために大きな役割を担っています。入会翌年には同好会の幹事になり、以来ずっと続けています。1 年間の取り切り制度があるのですが、優勝者には金貨の盾を出して好評です。



L 永生 芳樹

参加者全員が一度は優勝できるように

今期から幹事になりました。「コンペの組合せは前回と変える」「4 人のハンディをほぼ同じにする」この 2 点に注意しています。また、皆さん優勝が目標でしょうから、同じ人が連続して勝たないようにハンディを決めています。同好会に入らなければメンバーと年に 4 回もラウンドしないでしょうから、入って良かったです。

■ 歌謡同好会

歌が上手になりたいなら、この門をたたけ



L 高橋 健一

“先生”の指導つきで、上達も間違いなし

歌の好きなメンバーが 5～6 名集まって、それぞれ好きな曲を歌っていますが、時には“先生”に指導してもらうこともあります。指導料は決して高くありません。1 回につき 1 時間くらい教えてもらいますが、譜面を見ながらサビとか、ここはグッと抑えろとか、プロは歌うポイントを知っているの上達も早いです。歌う曲は先生がいっしょの場合は、指定されたものを 3～4 回歌い、不在の際は自分の持ち歌をどんどんやっています。



■ 釣り愛好会

釣り組より“宴会組”が多い？ 家族も楽しめる集い



L 後藤 敏夫

釣果は鰯や鯖、カサゴ、鯛で皆さんに喜ばれる

第一回は 2006 年 5 月で、神奈川・小田原の早川漁港や真鶴港から出港し、海釣りを頼んでいます。釣り人は 3～4 人ですが、宿泊は藤間仁章 L のお弟子さんが嫁がれた旅館（湯河原・花長園）なので、釣りをやらない人がその三倍くらい参加しています。釣果は鰯や鯖が一番で、カサゴや鯛がそれに続き、皆さんに食べてもらって喜ばれています。2010 年を最後に休止していますが、今年は復活させようと思っているので、大いに参加して味わってほしいです。



■ 呑みニケーション

まだまだ、あるある、クラブライフ



L 中浜 亮介

新人会員のやる気アップにもつながる

例会やアクティビティ以外で、メンバー間の関係を円滑にするものとして呑みニケーションはとても重要です。やはり飲んでいる時の方がリラックスして色々な事を話せますからね。私の声掛けで始まった飲み会に集まるのは 10 人以上。以前は店を貸し切ってメンバーの誕生会を行ったこともあります。新しく入会したメンバーはなかなか他の会員と馴染む機会が少ないですが、こういう場に来れば親近感が増し、クラブライフも楽しくなります。今後も私の体が続く限り大切にしていきます。



L 佐藤 雄一郎

素晴らしい仲間に出会えた事が自慢です

私のスポンサーは木下昇 L で、私が飲食店を経営していた頃から、かれこれ 20 数年のお付き合いですが、木下 L の交友関係を拝見して、自然と武蔵野ライオンズクラブに興味を持ちました。だから入会のお誘いをいただいた時はホントに嬉しかった。その後も多くの先輩方と飲み、時に語らい、相談し、泣くほど大笑いし、記憶を無くし… (笑)。楽しいライオンズライフを満喫しています。何でも話せる素晴らしい仲間に出会えた事は、私の自慢であり宝物です。



L 酒井 裕央

新企画のたたき台にもなっている

新しい企画が話題に上った時、まず呑みニケーションで盛り上がり、最初は先輩方が文句は言うものの、実現段階になると全員が協力して成功させようとする団結力は素晴らしいものがあります。呑みニケーションを重ねるごとに良案が足され、風呂敷も広げるだけ広げ、先輩方の意見を取り入れ身の丈に合うように風呂敷を畳んで事業を行うなど、若手が突っ走り気味でも少々のは先輩方が何とかして頂けるような暖かい雰囲気がいいですね。



L 戎 馨

談論風発が楽しめる仲間ができました

ライオンズに入会して 5 年になります。入会理由は仕事以外に、少しでも世の中に奉仕できたということと、人の世の幸・不幸は人との出会いから始まると考えているので、新しい出会いを求めていることでした。時に談論風発、天下国家を論じ、ジョークを連発しても、理解しあえる素晴らしい仲間ができたのが何よりの宝です。



■ メンバーひとことコメント



L 秋田 克之

クラブに入会して、地域に関わる多くの人との良縁が広がりました。今ではかけがえのない財産になり、感謝の気持ちでいっぱいです。クラブの広報責任者として、魅力満載の武蔵野LCをもっとアピールして、これからも素敵な出会いを数多く作っていききたいです。



L 秋本 清

ライオンズクラブは世界的団体で連帯感を実感でき、国内的にも信頼される団体である事を感じながら、各アクティビティに家族も楽しく参加でき、満足しています。仲間を増やし、活動を発展させたいと思います。



L 小林 利治

多摩地区で最初のクラブとして誕生できたのも、諸先輩方や地域の皆さまのご尽力があったからです。クラブのモットーである “We Serve / 我々は奉仕する” を理念に、周囲に感謝し、これからの力にして、新たな一歩を踏み出していききたいと思います。



L 酒井 裕央

他の多くの団体と同様、当クラブにも年功序列はあるものの、平等に扱って下さっています。先輩方を敬えばその気持ちを後輩へ還元するような雰囲気が強くなります。それが、50年に渡り先輩方が築き上げた伝統であり、我々も引き継ぎ残したいと思います。



L 坂本 己省

私は会員の皆さんが経験や立場、知識等で培った毒舌的なユーモアと含蓄のある言葉で話し合いを重ね、全員で地域の課題に取り組むことに魅力を感じています。今後も融和、遊び心で想像力を活かしたクラブを構成していく事が大切だと思います。



L 櫻井 正巳

東京武蔵野ライオンズクラブの活性化のために、クラブの会員増強に向かって、一人ひとりが小さい努力を積み上げ、大きな成果に向かって、共に頑張れたらと思っています。



L 井口 一男

昭和 53 年、当時の村松LCにスポンサーされ入会、平成 7 年に会長職を拝命。フィリピンのダバオに野外音楽堂を寄贈した事等が思い出に残ります。これからもメンバーの皆様のご活躍を期待し、東京武蔵野LCの益々の発展を祈って止みません。



L 稲垣 英夫

昭和 52 年に入会し、37 年が経過しました。この間会長もキャビネットも経験させて頂きました。奉仕の精神も学ばせて頂き、今武蔵野商工会議所会頭としてもその精神で努めさせて頂いております。今後とも人と人との交わりを大事にしていきたいと思っています。



L 岩戸 正美

2000 年に入会してから、今までにない新しい交流が繋がりました。青少年を対象にした柔道大会「武勇杯」にも、クラブとして協賛してもらい、感謝すると共にメンバーの友情を感じています。



L 岩村 昭英

「ライオンズのメンバー拡大という課題に関して」世界に対し、国に対してできることと並行し、地域に対してできる事、仲間に対してできること、家族に対してできること。これらを見つめ直す 50 周年でありたいと、考えます。



L 笹川 裕司

今までを振り返って、本当に諸先輩方達に可愛がって頂き交友関係が広がり、また様々な人達と触れ合える事ができ感激しています。クラブに入会できた事を誇りに思います。今後は不慮の事故で親を亡くした子供達の心の支えとなるアクティビティがやりたいです。



L 佐藤 雄一郎

今年で 8 年目を迎えますが、年々ライオンズライフが楽しくなってきました。何と言っても震災後の中野サンプラザで行ったアニソンコンサートが一番の思い出です。これからも良き仲間と大いに笑い、飲み、騒ぎ、楽しいライオンズライフを送っていききたいと思います。



L 志賀 且典

今日まで東京武蔵野LCは、地域のため多大な貢献をしてきましたが、今後高齢化が進み規模の縮小や資金不足で多くの事業の継続が困難になると思うので、内容を絞ってやらなければならない時期にきている、と思われます。



L 清水 宏益

広大な武蔵野独自の文化に根付いた事業に、多く関わっていききたいと思います。まだ入会したばかりでライオンズの精神もやっと解りかけてきたところです。とにかく今は何事も一生懸命にぶつかっていききたいと思います。



L 永生 芳樹

ゴルフ、マージャンなど、例会には無いイベントに多く参加できればと思っています。



L 戎 馨

クラブに入会したのは、少しでも世の中に最後の奉仕をしたいと思ったことと、人の世の幸・不幸は人との出会いから始まるので、新しい人との出会いを求めていることでした。それが少しでもできて良かったです。



L 大谷 直

クラブの現状は活動が活発でなく、魅力がなくなっています。現在の社会にあった行動の在り方を懸命に探してゆくしか道はありません。大胆な試みを模索することが今まさに求められていることだと思います。



L 小笠原 耕司

お陰様で、特にゴルフ同好会や宴会を中心に、クラブライフを楽しんでおります。将来は、旧事業とのバランスをとりつつも、新規事業の立ち上げに協力できればなあ、と思っています。



L 清水 友太郎

ライオンズメンバーだけの憩いの場となる談話室（喫茶・軽食）や碁、将棋、麻雀、カラオケ等を楽しめる趣味の会、委員会等出来る会議室があればいいと思います。



L 高根 啓

50 年・・・1 年 1 年積み重ねてきた歴史、その創り上げてきた伝統を引き継ぎ、つなげていく・・・その節目にメンバーでいられたことを感じ、その中で少しでも自分の役割が果たせればと思います。



L 高橋 勇

1990 年 1 月、稲垣会長の時に入会させていただき早いもので今年 25 年目を迎えました。私の人生の充実期に素晴らしいメンバーと一緒に過ごしたことは私の大きな財産となっております。これからもクラブライフを人生の道場と思いつかり取り組んで参ります。



L 高橋 健一

大先輩の L 新倉の紹介で、昭和 61 年に入会いたしました。いろいろな職業の人達との出合で、交友関係が広がりました。これからも皆さんと仲良く、クラブの発展に微力ながら協力したいと思います。



L 河田 敏夫

1992 年 4 月に、水村LCのスポンサーにて入会いたしました。



L 木下 昇

50 周年を迎えた事は素晴らしいことだと思います。これからもメンバーの結束と地域に根付いた事業を行い、メンバー一丸となって 55 周年に向かって頑張りたいと思います。



L 後藤 敏夫

LCのメンバーになって 12 年目。入会してから新潟県中越沖地震が発生、JRの駅頭で義捐金を集め日本赤十字を通じて現地へ送りました。仲間と共に汗をかくという経験を初めて行い大勢で行えば、大きく社会に貢献できることが分かりました。この経験を忘れずに今後も一層活動したいと思っています。



L 後藤 登

50 周年の会長を終え、初心にかえりライオンズクラブ活動を見つめ直してみたい。多くの良き友との出会いを大切に、今後のライオンズライフを歩んで行きたい。



L 田崎 耕作

入会して 6 年目ですが、最も印象深いのは「こいこいの集い」ですね。恵まれない人に対する奉仕活動は、皆さんとの努力があって初めてできるものです。今後ともクラブを続けていききたいと思います。



L 田辺 勲

私は高齢になってからクラブに参加したので、積極的に活動する体力もなく、申し訳なく思うのですが、すばらしい仲間との出会いは嬉しいことでした。ますますの発展を祈ります。



L 田辺 文彦

今年度で三年目のムービンピックは、スタンスの広い人脈と資金力が必要とされる事業ですが、大変な発展につながる未知の魅力を感じます。市内の他団体との交流を図り、合同事業としての連携で、自然なコミュニケーション作りが出来るのではとの期待も持てます。



L 徳沢 紘一

ライオンズヒムの一説、「リパティ・インテリジェンス・アワーネーションズ・セーフティ」をいつも口ずさんでおります。



L 中浜 亮介

入会以来 28 年。多くのすばらしいメンバーに恵まれて、楽しいライオンズライフを送っています。



L 長瀬 雄一

入会して 25 年目、次期会長として振り返ると「社会奉仕」という目的のために集まった人との触れ合い、そこから生まれる新しい友情、そして地域を中心に行なうその時代に沿った「温かいアクティビティ」。これこそがライオンズの基本と考えて行なっています。



L 中村 久文

入会して早 12 年。当時は 40 代で若手だった。まわりを見るとまだ若手？まだまだ若いつもりで頑張ります。



L 西宮 忠

2011 ～ 2012 年当クラブの会長の時、メンバーが快く委員長、幹事、会計の役職を引き受けてくれた事と共に、大変アクティブに委員会活動をして頂いた事は、今まで嬉しく、感謝の気持ちで一杯です。東京武蔵野 LC メンバー最高！



L 長谷部 繁

CN49 に幹事を、7 月から元ガパナーの会計事務所を手伝い、7 月 8 日に結婚式、10 月には第 1 子を授かりまして、忙しさが重なるものだなということを痛感いたしました。CN51 から賛助会員となりますが、また正会員に戻れば良いと思っています。



L 原田 啓助

入会して 27 年、数多くの方と出会って親交を深めて来ました。異業種の方との交流は未知への脅威であり、新しい発見でもありました。クラブにいたから出来た事。事業を振り返ると様々でした、大切なクラブです。大事にしてゆきます。



L 藤間 仁章

式典部会長なのです。これを書いているのは 2 日前、ワクワクドキドキです。「感動の時間・劇的な空間」をコンセプトに様々の演出、感謝の想いを伝えたくて！LC 的でない部分も少々、「今まで通りでいいんだ」では？



L 藤原 廣彦

入会させて頂き間もなく 1 年を迎えますが、50 周年の記念すべき年に会員でいられた事に感謝致します。例会・委員会となかなか出席ができませんが、We Serve の精神を忘れずに頑張ります。



L 星川 慶治

同期入会したメンバーが 10 人以上もいる年度だったので、同期会での飲み会が楽しい思い出になっています。酒が強いメンバーが多かったのですが、最後はみんなベロベロになってました。



L 松本 祥光

クラブ内外を問わず、いろいろと勉強させていただき、得るものが多く感謝しています。今後も多くの人のつながりを大事にしていきたいと思っています。



L 丸山 信一

CN40 で入会して、丁度 10 年。クラブ活動では幹事・会計の他委員長職をやらせて頂き、色々勉強させて頂きました。

まだまだ奥深いライオンズ。目配り・気配り・心配りに We Serve で頑張ります。



L 横山 信治

1990 年 6 月に、柳沢 L のスポンサーにて入会いたしました。



L 吉田 宗一郎

会員増強を 10 人して、役員の出来るメンバーを増やして、クラブアクティビティの充実並びに東京武蔵野ライオンズクラブの活性化を図れればと思います。



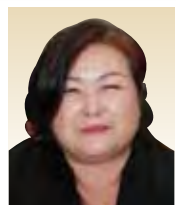
L 渡辺 正一

25 周年記念、渡部法雄会長が比国ダバオ市の日系人救済を願い日本語学校を建て創始とす。30 周年は歴史資料館であり、井口会長時の野外音楽堂。35 周年は国際交流館と続く。この 10 年間のライオンズの充実感は重いと思う。



L 渡部 法雄

今日、己がこの地球上に存在する事に何の疑惑も持たないのが人の常。己の存在の不思議さに心を配り、等しくこの地上に存在する或る生物とどう或るべきか？ここにライオンズクラブ存在の意味がある事を願う。



事務局担当 元石 喜代美

東京武蔵野ライオンズクラブの皆様、CN50 周年おめでとうございます。私も 7 年目を迎える事ができました。皆様の奉仕活動には、大変感銘を覚えます。意義ある諸活動の為に私も少しでも皆様のお力になれるように致しこれからもよろしくお願いいたします。

武蔵野むかし話



昭和 42 年頃の吉祥寺駅北口

今はたくさんの住宅や商店が建ち並び、活気が漲る武蔵野ですが、かつては、どんなまちで、どんなふう発展してきたのでしょうか。むかしから語り継がれてきた武蔵野にまつわる逸話の数々から、その歴史をふり返ってみました。

協力／東京武蔵野ライオンズクラブ L 高橋健一

人々の暮らしを潤し、江戸の繁栄を支えた武蔵野の水

水辺に残された古代人の足跡

太古の武蔵野台地は火山灰が推積した土地で、広漠とした原野でした。さらに川がなく、田を作るための豊富な水がなかったため、長い間、この時代には人が住んでいなかったのではないかと考えられていました。水は人々の生活になくてはならないものだからです。

神田上水

江戸のはじめ、江戸城の周りは現在の日比谷公園のあたりまで浅海が続いていました。そのため、川や井戸の水に塩水が混じり、大層飲み水に困ったと言います。

そこで、天正 18(1590)年、徳川家康は小石川(現在の文京区小石川)に水源を求め、台地の下から湧き出す水を引いて「小石川上水」を作りました。

しかし、江戸の人口が増えるにつれて、新しい水

しかし、井の頭池周辺で、縄文時代の集落跡が発掘されたほか、善福寺川や神田川に近い地域には、古墳時代の遺跡もたくさん残されています。

このように湧水池の周辺や、河川の流域に住んだ古代人の足跡を見ると、昔から武蔵野の水が人々の生活を潤し、発展させてきたことが伺えます。

道の開発が迫られます。井の頭池の湧水を水源とする「神田上水」が完成したのは寛永 6(1629)年頃のことです。一方、江戸の南西部は赤坂溜池を水源として利用していました。

因みに「井の頭」という名前ですが、一説にはこんこんと湧き出る池の水を見た徳川家光が、自ら小刀でコブシの木に「井の頭」と、その名を刻んだことが由来だと伝えられています。



玉川上水

寛永 12(1635)年、参勤交代の制度が確立すると、大名やその家族が江戸に住むようになり、人口増加に拍車がかかりました。もはや神田上水だけでは足りなくなり、多摩川から水を引いて江戸に取り込むことが計画されます。

そのための水路として承応 3(1654)年に完成

したのが「玉川上水」でした。羽村で多摩川から分かれて、四谷大木戸(現在の新宿区)まで、全長 43 キロメートルの水路です。

翌年 6 月には虎の門まで地下に配水管を布設し、江戸城をはじめ、四谷、麴町、赤坂など、江戸中央部へ給水していました。

千川上水(仙川用水)

元禄 9(1696)年に完成した千川上水は、玉川上水を分水して引いた江戸の上水で、桜上水とも呼ばれています。

この上水は、江戸の小石川御殿(現在の東大植物園)、湯島聖堂、上野寛永寺、浅草御殿(浅草寺)など、主に将軍御成関係地への飲料水供給が目的でしたが、江戸後期には、むしろ農業用水として大きな役割を果たすようになります。

宝永 4(1707)年には、流域農民からの嘆願により、

灌漑用水としての利用が許可。関、井草、中、中新井、長崎、滝野川、巣鴨などの 7 カ村に分水口が設けられ、水田灌漑用水として使用されるようになりました。

千川上水は、江戸への上水を何度か廃止されています。享保 7(1722)年、幕府が上水としての利用を停止。安永 8(1779)年に再興しますが、天明 6(1786)年に再び廃止となります。それ以降は村々の農業用水のみに利用されるようになり、名称も「仙川用水」と改称されました。

鷹狩りの一等地だった武蔵野。 当時からブランドのまちだった！？

鷹狩りの起源は古く、仁徳天皇によって鷹狩りが行われていたという記録が日本書紀に残されています。「力強さ」を感じさせる鷹は、昔から権力者の象徴でもあったのでしょう。

鷹狩りというのは、飼い馴らした鷹を、山や野原に飛来させて野鳥をとらせることで、遊戯というよりも、武芸を磨き、武士らしさを忘れさせないための嗜みでした。また、領地を見回するという意味もあったといわれています。

江戸の戦国期には盛んに行なわれ、特に徳川家康が鷹狩りを好んだのは有名な話です。しかし当初は家康の鷹狩りは公式なものではなく、特定の鷹場も設けていなかったのも、その都度お触れを出して、一時的に鷹場として利用していたそうです。やがて公式に将軍や徳川御三家の鷹場が制定されます。

江戸からも近い武蔵野には多くの幕府の鷹場が

ありました。三鷹は市内に 3ヶ所の鷹場があったことからその名が付き、国分寺のお鷹の道、小平の鷹の台、鷹の街道など、武蔵野には鷹場にちなんだ地名が各地に残されています。

村が鷹場にされると、さまざまな苦労がありました。たとえば、勝手に家を建てたり、木を切ったりすることはできません。

また、狩場として定められた区域は普段は禁猟区とされ、その区域では鳥獣だけでなく、野鳥のえさを絶やさないために、魚や虫を取ることも禁じられていました。そして、いざ鷹狩になると狩場近辺から集められたお百姓が人足として働かなければならないこともありました。

三代将軍である徳川家光も鷹狩りを好み、寛永 2(1625)年には、現在の御殿山に仮の宿泊所「御殿」をつくりました。それが今の「御殿山」という地名の由来です。

田がなかった武蔵野村、 米の代わりに納めていたものは？

武蔵野台地は水が乏しく、農地のほとんどが畑でした。米を作ることができなかった武蔵野の村々では、大麦、小麦、ヒエ、アワ、キビ、大豆、おかぼ（陸稲）などの作物を作っていました。

しかし、米と食生活が密接につながっている日本では、米を年貢として納める形が、江戸時代の半ばぐらいまで続いていました。

そこで、武蔵野村の人々は、おけら、マツムシ、スズムシ、ホタル、松の葉、桃の葉などを、米の代わりに年貢の一部として納めていたのです。一体、これらはどんなふうに使われていたのでしょうか。

まずおけらですが、これは鷹狩りの際、鷹のえさとして使われました。

それ以外のものは、意外なところで喜ばれていま

した。

最盛期には 2 千人の女性が仕えていたといわれる江戸城。夏には、暗闇に浮かび上がるホタルの幻想的な光、秋にはマツムシやスズムシの声……という具合に、大奥の女たちは四季折々の風情を楽しんだり、心をなぐさめたりしていたのだそうです。

また、松の葉は霜柱の養生として、江戸城の庭一面を覆っている苔の保護に使われていました。

肌や内臓の老化を防ぐなど、薬理作用がある桃の葉は、薬がなかった時代、それに代わる薬草として重宝されていました。日本では江戸時代から、夏の土用には桃湯に入る習慣があったとも伝えられています。

吉祥寺という寺がないのに、 何故、この地名がついたのか？

今の武蔵野市には「吉祥寺」という地名はあっても、その名の由来となる寺はありません。では何故、このような地名がついたのでしょうか。その背景には、江戸の食糧難に伴う新田開発の歴史があります。

今から約 350 年前、明暦 3（1657）年の正月、江戸は大きな火事に見舞われました。「明暦の大火」と呼ばれるこの大火、火元は本郷丸山町のお寺で、振袖についた火が火事の元になったという話もあり、「振袖火事」とも言われています。

火事の炎はたちまち南のほうに燃え広がり、神田や日本橋、そして江戸城の天守閣も焼いてしまいました。この火事によって、吉祥寺という大きな寺も、門前の人たちの家も焼けてしまいます。この頃、江戸の人口はパンク寸前でした。当然、野菜等の食料も不足してきます。

さらに翌年、明暦 4（1658）年の正月、再び大火が発生。別名「吉祥寺大火」とも呼ばれる火事で吉祥寺は再び焼け、門前の人たちも焼け出されてしまいます。

幕府は防火対策として市街の改造に踏み切り、大寺院や武家屋敷を移転させる一方で、人口問題と食料難を一挙に解決すべく、江戸市民の郊外地への入植政策に着手しました。吉祥寺を駒込（現在の文京区）にうつし、門前の人たちには武蔵野の新墾地を与えたのです。こうして、万治 2（1659）年から農民の移住が始まりました。

この人たちが移り住んだところが今の吉祥寺で、前に住んでいたところの寺の名前をとって、村の名前にしたのです。すでに開通していた玉川上水のおかげで武蔵野の原野は農地の開発が進み、吉祥寺村が誕生しました。

かつて武蔵野は、 神奈川県だった！？

江戸時代の終わりから明治時代にかけて、武蔵野の 4 カ村（吉祥寺・西窪・関前・境）が入っている府県は何度も変わっています。

慶応 3(1867) 年、15 代将軍・徳川慶喜の大政奉還によって武士の時代が終わり、中央政府が政治を行う世の中になりました。

明治 4（1871）年の廃藩置県で江戸は東京府と改称され、藩も県と改められていきます。このころ、4 カ村は品川県に入っていました。翌年の明治 5(1872) 年、今度は神奈川県に編入されます。

明治 18（1885）年に横浜港でコレラが発生し、翌 19（1886）年には東京府全域に広がりました。そのころの東京の水道は江戸時代のままで、玉川上

水の水をそのまま木や石の管を使って、東京の中心部に送るだけのものでした。

その後、明治 22(1889) 年の市制町村制が施行され、それまでの 4 カ村（吉祥寺・西窪・関前・境）と井口新田（現在の三鷹市）の飛び地が合併して武蔵野村が誕生しました。

このころの武蔵野村は神奈川県の管轄で、「神奈川県北多摩郡武蔵野村」となっていました。明治 26(1893) 年に東京府へ移管されることになります。これは、玉川上水の水質と水量の保全を目的に、その流域と源流を東京府の管轄下に置こうという意味合いもあったようです。これにより武蔵野村は「東京府北多摩郡」になりました。



明治16年の地券証書
当時、武蔵国北多摩郡吉祥寺村は神奈川県に属した。

玉川上水に 船が通っていた

武蔵野新田の農民たちは、江戸へ作物や材木などを運んで収入を得ていましたが、江戸時代の後半、人馬よりも輸送力のある船で荷物を運びたいという願いが高まってきました。

玉川上水の近くに新たな掘り割りを設けて多摩川から水を取り入れ、舟運を開設する計画も立てられましたが、これは流域農民の反対などがあって、実現しませんでした。

その後、玉川上水そのものを利用して舟運を開くことが提案されます。しかし、なかなか幕府の許可がおりず、100年近く挫折が繰り返されました。

そこで武蔵野の実力者たちは、江戸市民の需要が

満たされるだけでなく、幕府への税金が増えるなど、事業の成果が幕府財政に寄与するような目論見を出しました。

こうした努力が実って明治 3（1870）年 4 月、ついに玉川上水の船による輸送が実現します。

事業が繁盛した時には、舟の折り返し地である「新宿」界隈の盛り場は、一時、船頭が大いにもてはやされたと言われています。しかし、飲料水の水源である用水を利用しての事業です。まもなく水質汚濁の問題が指摘され、明治 5（1872）年に廃止されてしまいます。わずか 2 年 1 カ月あまりの運行でした。

船から鉄道へ。 近代交通の夜明け

玉川上水通船再開の動きは、明治 16（1883）年ごろまで繰り返されました。当時の人たちにとって、通船は荷物を運び、生活を豊かにして、近代化をもたらしてくれるものだったのです。

運送手段を持ちたいという思いは、やがて鉄道を通す運動へと変わっていきます。

その願いが実現し、甲武鉄道（今の JR 中央線）が開業したのは、明治 22（1889）年のことでした。4 月 11 日に新宿～立川間が開通し、8 月 11 日には立川～八王子間の営業が始められました。

鉄道路線には、開業当初から境停車場（大正 8 年から「武蔵境」と名称変更）が、明治 32（1899）年 12 月 30 日には、吉祥寺停車場が開設されました。

この吉祥寺停車場の開設は、武蔵野市域の発展に大きな影響を与えることになります。その後、昭和 5（1930）年には、三鷹駅が開設されます。

開業から 17 年を経過していた甲武鉄道は、明治 39（1906）年に国有化され、中央線の一部として信州を経由し、東京と名古屋を結ぶ幹線として、ま

た東京近郊の郊外電車として整備されていきます。これにより、郊外住宅地としての武蔵野村がますます注目されるようになりました。



昭和 42 年頃の吉祥寺駅周辺



昭和 41 年頃の三鷹駅北口

京王電鉄が電気の 供給を行っていた！？

明治 20（1887）年、日本に初めて電灯がついてから約 30 年後の大正 5（1916）年、武蔵野村にも電灯がとりました。電気を供給していたのは京王電気軌道株式会社（現在の京王電鉄）で、五日市街道や五日市街道から吉祥寺駅、境駅との間に電柱が立てられて、送電が始まりました。

京王電鉄の歴史は、明治 38（1905）年 12 月 12 日に、日本電気鉄道株式会社が関係官庁に電気鉄道敷設を出願したことにまで遡ります。

後に、日本電気鉄道は明治 39（1906）年 8 月 18 日に武蔵電気軌道株式会社と改称し、既に出願していた鉄道計画路線を変更しました。そして、この時に出願した路線が現在の京王線の路線の経路の基となりました。

その後、明治 43（1910）年 4 月 12 日に武蔵電気軌道が京王電気軌道株式会社と改称します。しかし、まだ鉄道路線は有していなかったため、当初の営業は明治 44（1911）年に関係官庁より許可が出た電気供給事業のみでした。



昭和 6 年の京王電気軌道発行の電燈料領収証

昭和 13 年の京王電気軌道発行の電燈料領収証

関東大震災を契機に、 農村から住宅街へ変貌

大正 12（1923）年 9 月 1 日に発生した関東大震災は、東京市の住宅や京浜地区の工場など 6 割から 7 割を倒壊・焼失させ、多くの犠牲者を出しました。関東大震災は被害の甚大さとともに日本経済にも大きな影響を与えました。

第一次世界大戦後の戦後恐慌に加えて、震災恐慌が加わり、金融恐慌へと発展していきます。

幸い武蔵野村は被害が少なかったため、救援のため、ジャガイモや押し麦、漬け物、みそなどの食物を被災地に送りました。

武蔵野村は都心と結ばれている中央線をはじめ広い土地があったので、その後も多くの被災者が移り住みました。これを契機に、武蔵野村は郊外住宅地という様相を急速に強めていきます。

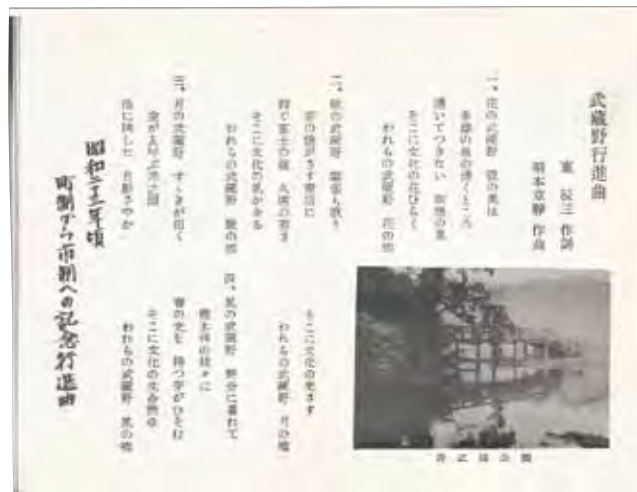
大正 13（1924）年には、美しいケヤキ並木で知られる成蹊学園が池袋から移転したこともあって、人口は急激な増加をみせます。大正 11 年の人口

は 5,200 人余りでしたが、昭和元（1926）年には 1 万 800 人余りと、4 年間で 2 倍以上になり、農村から住宅街、そして多くの商店や学生で賑わう街へと変貌を遂げることになります。



昭和の成蹊学園

武蔵野市の誕生！ それを記念して作られた武蔵野行進曲



昭和 23 年頃、町制から市制への記念行進曲

武蔵野町を市にするという計画は、昭和 15 (1940) 年にもありましたが、当時は人口が 4 万人を超えていたものの、公共施設や文化施設が整っていなかったこともあり、実現しませんでした。

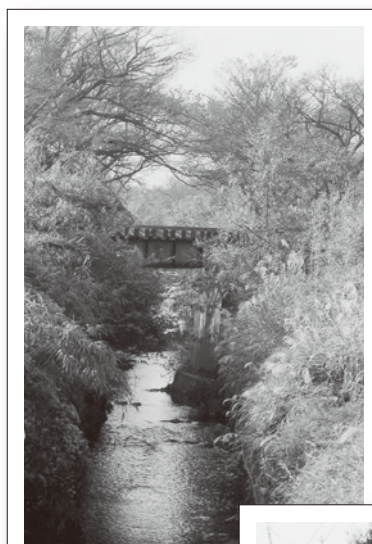
戦争が終わり、昭和 22 (1947) 年になると人口も 6 万人を超え、多くの私立学校が移転して来たり、武蔵野警察署、武蔵野簡易裁判所、武蔵野区検察庁、武蔵野税務署などの官公署もできたことから、武蔵野町は地域の中心都市として認められ、市になる条件が整いました。

昭和 22 (1947) 年 11 月 3 日、市制が施行され、武蔵野市が誕生しました。「武蔵野行進曲」はそのときに作られた記念行進曲です。

玉川上水、千川上水、 仙川の清流復活

玉川上水は江戸時代から 300 年以上も江戸、東京の飲料水を運ぶ水路として使われてきましたが、昭和 40 (1965) 年に新宿の淀橋浄水場が廃止されると、小平監視所から下流は水が途絶えてしまいました。武蔵野市は東京都に対して、玉川上水の清流復活を何度も要望。玉川上水を愛する人々の尽力もあって、ついに昭和 61 (1986) 年、清流復活事業により流れが復活しました。

玉川上水の分水である千川上水は、昭和 46 (1971) 年に使用を止めてからは、水が流れなくなっていました。平成元 (1989) 年に、境橋から 5 km にわたって清流が復活。そして平成 10 (1998) 年から、ほとんど水の流れがなかった仙川にも、清流を復活させようという取り組みが始まりました。平成 13 (2001) 年には工事が完成し、自然の緑と土の岸辺の「仙川緑地」に生まれ変わり、メダカが泳ぎ、トンボが飛ぶ水辺となっています。



昭和 40 年頃の玉川上水



昭和 35 年頃の仙川上水

東京武蔵野ライオンズクラブが 誕生した頃、武蔵野は・・・

今から 50 年前、東京武蔵野ライオンズクラブが誕生した頃、武蔵野はどんな歴史を刻んでいたのでしょうか。

進む人口の増大と都市化

昭和 20 年代の終わり頃から 30 年代前半にかけて、武蔵野市の人口は急激に増えていきました。そして、高度経済成長期にあった日本経済の進展もあって急速に都市化が進んでいきます。

昭和 21 (1946) 年には 5 万 5,669 人でしたが、吉祥寺商店街が発展し、都営住宅や公団住宅の建設、都心から緑を求めて移り住んでくる人々の住宅の急増で、昭和 32 (1957) 年には人口が 10 万人を突破。10 年余りの間におよそ 2 倍に増えたこと

になります。

周辺の人口が増えるとともに、交通の便利な吉祥寺駅を利用する通勤、通学客や買い物客も増えていきました。ところが、当時の吉祥寺駅前は道幅がせまい上に、道路の両側に商店街があって、バスがやっと通れるような状態でした。人口の急増は、緑の減少、交通難、都市施設の不足等の問題を引き起こし、市政への要望の増加をもたらすことにもなります。

大変貌を遂げた吉祥寺

市では、吉祥寺駅周辺の再開発事業に関して、昭和 29 (1954) 年から市議会に特別委員会を設置して取り組んできましたが、長い間地元からの賛同が得られず難航しました。

ようやく地元とも話し合いがつき、計画決定がなされたのは昭和 39 (1964) 年、東京武蔵野ライオンズクラブが誕生した年でした。

昭和 41 (1966) 年、ついに市議会で吉祥寺駅周辺都市計画事業が決定します。

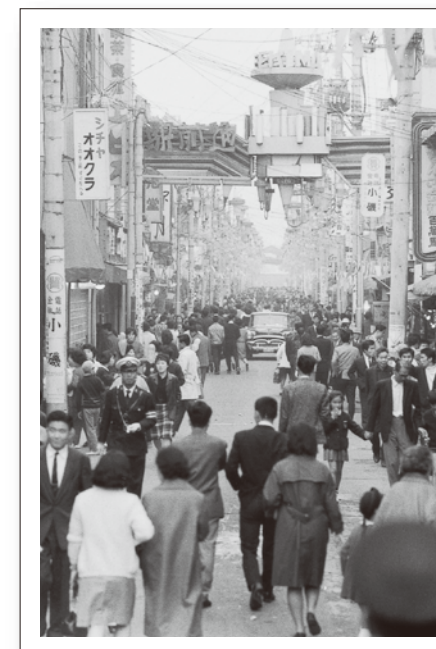
昭和 43 (1968) 年には事業推進のための開発公社を設立。昭和 44 (1969) 年、高架になって新しく建て替えられた駅に「吉祥寺ロンロン」が誕生しました。



昭和 42 年頃の吉祥寺の商店街

昭和 46 (1971) 年には周辺の道路を広く整備して、吉祥寺大通りが完成します。

さらに、開発の進む吉祥寺には、昭和 40 年代から 50 年代にかけて商業・文化ビル「F・Fビル」がオープンしたほか、近鉄百貨店、東急百貨店、パルコなど大型ショッピングセンターやデパートが次々と開店し、吉祥寺は新宿以西の最大の商業地となりました。



昭和 40 年頃の吉祥寺駅前通り

編集後記

Ｌ小林実行委員長から、「全員参加での 50 周年にするんだ」と承り、「みんなで作り上げる記念誌がいいな」と思いました。しかしすぐ壁にぶち当たるのが今回の記念誌部会長さん。「記念誌をみんなで作り上げるのにはどうしたらいいのか？」で、最初に思いついたのは、すべてのメンバーを小グループに分けての座談会実施でした。が、それは現実的ではなく、最終的には、クラブの歴史をみんなに語ってもらい、まとめ上げる方法に落ち着きました。

友人のデザイナーさんやライターさんを無理やり巻き込んでの制作作業は、想像以上に過酷なものになりましたが、“みんな”の協力によって出来上がったのがこの記念誌。全員参加型の活動精神こそ、武蔵野ＬＣが 50 年積み上げてきた “We Serve” なのです。

ちょっと変わった記念誌になったかもしれませんが、新しいスタイルを発信していくのが武蔵野という街に集う、我々のチャレンジ魂だとご理解いただければ幸いです。

50 周年記念実行委員会 記念誌部会長 Ｌ秋田克之

東京武蔵野ライオンズクラブ C N 50 周年記念誌

発行日 平成 26 年 7 月 10 日

制 作 C N 50 周年実行委員会 記念誌部会
Ｌ秋田 克之 Ｌ丸山 信一 Ｌ佐藤 雄一郎
Ｌ渡部 法雄 Ｌ高橋 健一 Ｌ長谷部 繁

デザイン：アニマルデザインスタジオ

編 集：田丸 秀夫 松井 京子

写 真：岩松 修 丸山 信一

企画制作：有限会社シンクポート



半世紀育てた奉仕の心 明日へつなげる We Serve